

2004年度

フランス語学科シラバス

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

フランス語学科のカリキュラムは入学年度により2種類に分かれています。「2003年度以降入学者用」と「2002年度以前入学者用」です。各自の入学年度に従い、目次を確認してください。

03年度以降 ①02年度以前	科目名 a ② 科目名	③ 担当者
④ ◆講義目的 講義概要		⑦ ◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 春学期 】		
⑤ ◆評価方法		
⑥ ◆テキスト 参考文献		

*上段は、春学期科目です。

- ①② 入学年度により科目が異なります。
- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
- ⑤ a科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
b科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
- ⑦ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

03年度以降 ①02年度以前	科目名 b ② 科目名	担当者
◆講義目的 講義概要		◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 秋学期 】		
◆評価方法		
◆テキスト 参考文献		

*下段は、秋学期科目です。
各項目については、春学期と同一です。

目次

2003年度以降入学者用

— 学科基礎科目 —

《フランス語部門》

フランス語 I a・b(文法)	各担当教員	1
フランス語 I a・b(総合)	各担当教員	2
フランス語 I a・b(会話)	各担当教員	3
フランス語 I a・b(LL)	各担当教員	4
フランス語 II a・b(文法)	各担当教員	5
フランス語 II a・b(総合)	各担当教員	6
フランス語 II a・b(会話)	各担当教員	7
フランス語 II a・b(講読)	各担当教員	8
フランス語 II a・b(LL)	各担当教員	9

— 学科専門科目 —

《「フランス語学・文学」部門》

フランス文学概論 a・b	伊藤幸次	10
--------------	------	----

《「フランス文化・社会」部門》

フランス文化・社会概論 a・b	横地卓哉	11
フランス事情	(春学期完結) 筒井伸保	12
〃	(秋学期完結) 前川久美子	13
フランスの歴史 a・b	藤田朋久	14
フランスの思想 a・b	筒井伸保	15
フランスの美術 a・b	前川久美子	16
フランスの音楽 a・b	松橋麻利	17
フランスの演劇 a・b	井村順一	18

2002年度以前入学者用

— 学科基礎科目 —

《フランス語部門》

フランス語 I (文法)	各担当教員	1
フランス語 I (総合)	各担当教員	2
フランス語 I (会話)	各担当教員	3
フランス語 I (LL)	各担当教員	4
フランス語 II (文法)	各担当教員	5

フランス語Ⅱ（総合）	各担当教員	6
フランス語Ⅱ（会話）	各担当教員	7
フランス語Ⅱ（LL）	各担当教員	8
フランス語Ⅱ（講読）	各担当教員	9

— 学科共通科目 —

《フランス語部門》

総合フランス語	各担当教員	19
フランス語文章表現法	B. レウルス	20
〃	C. ヴァンドルディ	21
〃	M. ミズバヤシ	22
〃	M. ミュノーズ	23
〃	Ph. M. R. ヴァネ	24
和文仏訳	A. ドホス	25
〃	小石 悟	26
フランス語会話	C. ヴァンドルディ	27
〃	C. ヴァリエンス	28
〃	F. ルーセル	29
〃	H. ドリエップ	30
〃	L. フォンテーヌ	31
〃	M. ミズバヤシ	32
〃	R. サクマ	33
〃	S. ジュンタ	34
時事フランス語	井上 美穂	35
〃	横地 卓哉	36
商業フランス語	C. パジエス	37
〃	大井 正博	38

— 学科専門科目 —

《「フランス語学・文学」部門》

フランス語学概論	古川 直世	39
フランス文学概論	伊藤 幸次	40
フランス語史	山田 秀男	40
フランス文学史	江花 輝昭	41
フランス語学各論	小石 悟	42
フランス文学各論	根本 祐徳	43
フランス語学講読	小石 悟	44

〃	田 桐 正 彦	45
〃	山 田 秀 男	46
フランス文学講読	M. ミズバヤシ	47
〃	伊 藤 幸 次	48
〃	筒 井 伸 保	49
〃	根 本 祐 徳	50
〃	保 苺 瑞 穂	51
〃	横 地 卓 也	52

《「フランス文化・社会」部門》

フランス文化・社会概論	横 地 卓 哉	11
フランス事情	(春学期完結) 筒 井 伸 保	12
〃	(秋学期完結) 前 川 久 美 子	13
フランスの地誌	鈴 木 隆	53
フランスの歴史	藤 田 朋 久	14
フランスの思想	筒 井 伸 保	15
フランスの美術	前 川 久 美 子	16
フランスの音楽	松 橋 麻 利	17
フランスの演劇	井 村 順 一	18
フランスの政治	井 上 ス ズ	54
フランスの経済	千 代 浦 昌 道	55
フランス文化・社会各論	井 上 た か 子	56
フランス文化・社会講読	Ph. M. R. ヴァネ	57
〃	井 上 ス ズ	58
〃	江 花 輝 昭	59
〃	鈴 木 隆	60
〃	藤 田 朋 久	61
〃	前 川 久 美 子	62
〃	若 森 栄 樹	63

フランス語学科 英語科目
＜ 3・4年生用＞
目 次

英語(基礎読解Ⅲ) 金谷 優子 64
" 佐藤 倫之 65
" 佐野 裕美子 66
" 高松 節子 67
英語(基礎作文Ⅲ) E. ハードスターク 68
" 石月 正伸 69
" 佐野 裕美子 70
英語(基礎会話Ⅲ) L. K. ハーキンス 71
" T. J. フォトス 72
英語(上級読解Ⅲ) J. ウォールドマン 73
英語(上級作文Ⅲ) 保坂 華子 74
英語(上級会話Ⅲ) P. ドーレ 75
" R. M. ペイン 76
" R. ダラム 77
英語(CAEL) 安井 美代子 78

03年度以降 02年度以前	フランス語 I (文法) a フランス語 I (文法)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 <p>この講座は週2回の授業により、1年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。</p> <p>どのような教科書を使うのか、どのように授業を進めるのかといったことに関しては担当の先生より説明があるので、最初の授業には必ず出席してください。</p>		◆授業計画	
◆ 評価方法 <p>担当の先生より指示があります。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>担当の先生より指示があります。</p>			

03年度以降 02年度以前	フランス語 I (文法) b フランス語 I (文法)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 <p>上記の続きです。</p>		◆授業計画	
◆ 評価方法 <p>担当の先生より指示があります。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>担当の先生より指示があります。</p>			

03年度以降 02年度以前	フランス語 I (総合) a フランス語 I (総合)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この講座はフランス語の実力を総合的に養うための講座で、週2回あり、LL、会話と同じ教科書を用います。教科書は champion I です。(既習クラスは Panorama I)</p> <p>この講座では特に文法、語彙の習得を中心に置きます。具体的には各課の最初にある dialogue を解説し、関連した文法事項を学び、練習問題を行うことで知識を確実に身につけ、そしてフランス語を書く能力を少しずつつけていきます。</p> <p>Champion I では unité0 から unité5 まで、Panorama I では leçon4 から leçon9 まで進みます。</p>			
◆ 評価方法			
担当の先生から指示されます。			
◆テキスト、参考文献			
<p>未習クラスは Champion I (livre de l'élève と cahier d'exercices) 既習クラスは Panorama I (livre de l'élève と cahier d'exercices)</p>			

03年度以降 02年度以前	フランス語 I (総合) b フランス語 I (総合)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>前期のつづき</p> <p>Champion I では unité6 から unité10 まで、Panorama I では leçon10 から leçon15 まで進みます。</p>			
◆ 評価方法			
担当の先生から指示されます。			
◆テキスト、参考文献			
春学期と同じ。			

03年度以降 02年度以前	フランス語 I (会話) a フランス語 I (会話)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 フランス人あるいはネイティブによる会話の講座です。総合フランス語およびLLと平行して、フランス語会話の力をつけることを目的としています。進度は総合フランス語、LLと同じです。		◆授業計画	
◆評価方法 担当の先生から指示があります。			
◆テキスト、参考文献 総合フランス語と同じ			

03年度以降 02年度以前	フランス語 I (会話) b フランス語 I (会話)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 上記講座の続きです。 進度に関しては総合フランス語参照。		◆授業計画	
◆評価方法 担当の先生より指示があります。			
◆テキスト、参考文献 総合フランス語と同じ			

03年度以降 02年度以前	フランス語 I (LL) a フランス語 I (LL)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講座では特に発音、つづり字、聞き取りに力を入れます。教科書は総合フランス語、会話と同じです。</p> <p>授業の進め方については担当の先生の説明がありますが、大体、総合フランス語や会話と同じペースで進んでいきます。</p> <p>進度に関しては総合フランス語シラバスを参照のこと。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の先生から指示があります。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>総合フランス語と同じ</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度以前	フランス語 I (LL) b フランス語 I (LL)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>上記講座の続きです。</p> <p>進度に関しては総合フランス語シラバスを参照のこと。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の先生から指示があります。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>総合フランス語と同じ</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度以前	フランス語Ⅱ（文法）a フランス語Ⅱ（文法）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この講座は初級文法を終えた学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的とします。いわゆる中級文法です。</p> <p>教科書、授業の進め方および進度に関しては担当の先生より説明があります。</p>			
◆ 評価方法			
<p>担当の先生より指示があります。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>担当の先生より指示があります。</p>			

03年度以降 02年度以前	フランス語Ⅱ（文法）b フランス語Ⅱ（文法）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期と同じ</p>			
◆ 評価方法			
<p>春学期と同じ</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>春学期と同じ</p>			

03 年度以降 02 年度以前	フランス語Ⅱ (総合) a フランス語Ⅱ (総合)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講座はフランス語の力を総合的に伸ばすことを目的としています。既習クラスは Panorama Ⅱ を、未習クラスは Champion Ⅰ、Ⅱ を用います。授業は文法を身につける、語彙をマスターすること、そしてフランス語を書く力をつけることに重点をおきます。</p> <p>進度については Champion の場合は livre1 の unité11 から unité15 まで、PanoramaⅡ の場合は unité2 の半ばまで進みます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の各先生が指示されます。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Champion Ⅰ、Ⅱ PanoramaⅡ</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度以前	フランス語Ⅱ (総合) b フランス語Ⅱ (総合)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講座は春学期の続きで、フランス語の力を総合的に伸ばすことを目的としています。既習クラスは Panorama Ⅱ を、未習クラスは Champion Ⅰ、Ⅱ を用います。授業は文法を身につける、語彙をマスターすること、そしてフランス語を書く力をつけることに重点をおきます。</p> <p>進度については Champion の場合は livre1 の unité16 から livre2 の unité1 から unité4 まで進みます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>春学期と同じ</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春学期と同じ</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度以前	フランス語Ⅱ（会話） a フランス語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この講座は総合フランス語、LL と連帯した講座で、同じ教科書を用いて授業を行います。先生はフランス人あるいはネイティブ・スピーカーで、特に会話と決まった言い回し（expressions）を中心とした授業になります。</p> <p>教科書は既習クラスでは PanoramaⅡ、未習クラスでは ChampionⅠ、Ⅱです。</p> <p>進み方に関しては総合フランス語と同じです。</p>			
◆ 評価方法			
<p>担当の先生により指示されます。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>ChampionⅠ、Ⅱ PanoramaⅡ</p>			

03 年度以降 02 年度以前	フランス語Ⅱ（会話） b フランス語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期と同じ</p>			
◆ 評価方法			
<p>春学期と同じ</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>春学期と同じ</p>			

03年度以降 02年度以前	フランス語Ⅱ（講読）a フランス語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としています。</p> <p>教材および授業の進め方と進度に関しては先生から直接指示があります。</p>			
◆評価方法			
担当の各先生より指示されます。			
◆テキスト、参考文献			
担当の各先生より指示されます。			

03年度以降 02年度以前	フランス語Ⅱ（講読）b フランス語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
春学期と同じ			
◆評価方法			
春学期と同じ			
◆テキスト、参考文献			
春学期と同じ			

03年度以降 02年度以前	フランス語Ⅱ (LL) a フランス語Ⅱ (LL)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この授業では LL 教室を用いて、主に発音、聞き取り、compréhension globale などに力を入れます。教科書は総合フランス語や会話と同じです。</p> <p>授業の進め方については担当の先生の説明がありますが、進度は総合フランス語、会話と同じです。</p>			
◆ 評価方法			
<p>担当の各先生より指示されます。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Champion I、II Panorama II</p>			

03年度以降 02年度以前	フランス語Ⅱ (LL) b フランス語Ⅱ (LL)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>同上</p> <p>この授業では LL 教室を用いて、主に発音、聞き取り、compréhension globale などに力を入れます。教科書は総合フランス語や会話と同じです。</p> <p>授業の進め方については担当の先生の説明がありますが、進度は総合フランス語、会話と同じです。</p>			
◆ 評価方法			
<p>担当の各先生より指示されます。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Champion I、II Panorama II</p>			

03 年度以降 02 年度以前	フランス文学概論 a フランス文学概論	担当者	伊藤幸次
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業では、江花先生の「フランス文学史」が17・18世紀をあつかうのに対し、主として19・20世紀をあつかいます。つまり両方で近代フランス文学を概観するわけです。そうは言っても全部を満遍なくやってはられません。まず受講者は歴史的知識が欠けていると思われるので、大革命以降の19世紀フランス史の入門をしてもらいます。次に、読書や文学鑑賞の習慣、また論文を書く訓練などが欠けているとも考えられますので、短編小説や長編の抜粋などを翻訳で読んでもらい、それについての課題作文を提出してもらいます。これらの資料配布やレポート提出は講義支援システムを利用します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 授業方法、評価方法の解説。資料紹介。 2～4 歴史入門。最初の作品の例示と課題作文の書き方検討。講義支援システムの利用法。 5～12 主要作家、作品の紹介。関連する政治・社会・出版事情の検討。提出されたレポートについてのコメントや討論。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>レポートおよび資料持込の試験による。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>伊藤幸次著『バルザックとその時代』渡辺出版、2004年。</p>			

03 年度以降 02 年度以前	フランス文学概論 b フランス文学概論	担当者	伊藤幸次
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1～12 主要作家、作品の紹介。関連する政治・社会・出版事情の検討。提出されたレポートについてのコメントや討論。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>同上。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>同上。</p>			

03年度以降 02年度以前	フランス文化・社会概論 a フランス文化・社会概論	担当者	横地卓哉
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>フランス文化・社会に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>本講義は複数の担当者によって行われ、テーマは地理・歴史から日常生活まで多岐にわたる。フランス語、フランスにすることがらを学んでいく上で前提とされる基礎知識、フランス語学科学生に要求されるフランスに関する「常識」を身につけるための講義であるから、フランス文化・社会を専攻しようとするものに対してはもちろんのこと、フランス語学・文学を専攻しようとするものに対しても、第一年次で受講することを強くすすめる。</p> <p>講義スケジュールや評価方法について第1回目（4月14日）により詳しい説明を行い、資料を配付するので、受講希望者は必ず出席すること。</p>		<p>1. 4/14 ガイダンス 横地卓哉</p> <p>2. 4/21 地理 鈴木隆</p> <p>3. 4/28 地理 鈴木隆</p> <p>4. 5/12 地理 鈴木隆</p> <p>5. 5/19 地理 鈴木隆</p> <p>6. 5/26 歴史 藤田朋久</p> <p>7. 6/2 歴史 藤田朋久</p> <p>8. 6/9 歴史 藤田朋久</p> <p>9. 6/16 経済 千代浦昌道</p> <p>10. 6/23 経済 千代浦昌道</p> <p>11. 6/30 経済 千代浦昌道</p> <p>12. 7/7 まとめ 横地卓哉</p>	
◆ 評価方法			
定期試験 平常点（毎回出席カードで出欠をとる）			
◆テキスト、参考文献			
全般に関するものは4月14日に、個々のテーマに関するものは各担当者が授業時に紹介する。			

03年度以降 02年度以前	フランス文化・社会概論 b フランス文化・社会概論	担当者	横地卓哉
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
春学期参照		<p>1. 9/29 政治 井上スズ</p> <p>2. 10/6 政治 井上スズ</p> <p>3. 10/20 政治 井上スズ</p> <p>4. 10/27 教育 筒井伸保</p> <p>5. 11/10 社会問題・日常生活 筒井伸保</p> <p>6. 11/17 社会問題・日常生活 筒井伸保</p> <p>7. 11/24 EU と女性 井上たか子</p> <p>8. 12/1 EU と女性 井上たか子</p> <p>9. 12/8 フランス料理 江花輝昭</p> <p>10. 12/15 フランス料理 江花輝昭</p> <p>11. 12/22 フランス料理 江花輝昭</p> <p>12. 1/12 まとめ 横地卓哉</p>	
◆ 評価方法			
春学期に同じ			
◆テキスト、参考文献			
春学期に同じ			

03年度以降 02年度以前	フランス事情（春学期）	担当者	筒井 伸保
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>フランス17世紀の古典劇（コルネイユ、モリエール、ラシーヌ）と日本の古典演劇（能、狂言、歌舞伎）との比較を通して、演劇に関する理解を深める。また、外国人に紹介するのに必要最低限の日本の古典演劇についての知識を身に付ける。日仏それぞれの古典劇成立の歴史、作劇規則、劇場の機能を説明した上で、フランス古典劇と歌舞伎の台本の抜粋を読み、ビデオで実際の舞台上演の様子を鑑賞する。台本を読む際に、ある程度のフランス語力と、古文の読解力が必要である。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>初めに、日仏それぞれの古典劇成立の歴史、作劇規則、劇場の機能を説明する。その上で、フランス古典劇と歌舞伎の台本の抜粋を読み、ビデオで実際の舞台上演の様子を鑑賞する。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>平常点およびレポート（都内の劇場（歌舞伎座など）に行き、実際に見物した上でレポートを書く）</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>参考書：河竹登志夫『演劇概論』（東大出版会）岩瀬孝、佐藤実枝、伊藤洋『フランス演劇史概説』（早大出版部）</p>			

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

03年以降 フランス事情 02年以前 フランス事情	担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画
◆評価方法		
◆テキスト、参考文献		

03年以降 フランス事情 02年以前 フランス事情	担当者	前川久美子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画
日本近代とヨーロッパの建築を候補として、目下テーマを検討中です。具体的な内容と進め方については最初の時間にお話しします。		
◆評価方法		
テストと平常点による。		
◆テキスト、参考文献		
未定		

03年度以降 02年度以前	フランスの歴史 a フランスの歴史	担当者	藤田朋久
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的： *フランス史の基礎知識を習得する。 *フランス社会の歴史的な特質を理解する。</p> <p>講義概要： フランス史の概説をおこないます。古代から近代まで、各時代を概観した上で、個別的な問題を取り上げて論じます。また関連史料を読んだり、ビデオなども見る予定です。</p> <p>参考文献： 福井憲彦編「フランス史」(新版世界各国史 12) 山川出版社。その他の文献については、教室で指示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 古代：ケルト時代 3. 古代：ガロ＝ローマ時代 4. 初期中世 (1) 5. 初期中世 (2) 6. 紀元千年について (1) 7. 紀元千年について (2) 8. 盛期中世 (1) 9. 盛期中世 (2) 10. 後期中世 (1) 11. 後期中世 (2) 12. まとめ 	
◆ 評価方法			
試験 (年 2 回)、レポート (年 1 回)。			
◆テキスト、参考文献			
プリント配布			

03年度以降 02年度以前	フランスの歴史 b フランスの歴史	担当者	藤田朋久
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 16世紀 (1) 3. 16世紀 (2) 4. 17世紀 (1) 5. 17世紀 (2) 6. 18世紀 (1) 7. 18世紀 (2) 8. フランス革命 (1) 9. フランス革命 (2) 10. 19世紀 (1) 11. 19世紀 (2) 12. まとめ 	
◆ 評価方法			
同上			
◆テキスト、参考文献			
同上			

03年度以降 02年度以前	フランスの思想 a フランスの思想	担当者	筒井 伸保
◆講義目的、講義概要 フランス・ルネサンス（16世紀）および古典期（17世紀）の思想を概観する。この時期を代表する3人の思想家、モンテーニュ、デカルト、パスカルをとりあげ、内容や背景を説明しながら、抜粋を読む。また、この時期の思想、哲学の理解には古代・中世の哲学史の知識が必要なので、講義はまず歴史的な概説から始める。授業の理解にはある程度のフランス語の知識が必要である。本年度は現代思想を扱わないので、現代思想に関心のある学生は、次年度の若森教授の「フランスの思想」を履修すること。試験もしくはレポートは、授業中に扱った、なんらかの問題に関する正確な知識に基づくコメント（読書感想文や入試の小論文と異なる）を要求するので、日頃から論理的な文章を読み書きする習慣をつけること。		◆授業計画 4月、5月は古代ギリシア・ローマおよび中世の主な哲学の概説。 春学期は、主にルネサンスの思想家、モンテーニュの『エッセー』を扱う。	
◆ 評価方法 学期末の試験またはレポート（履修者数による）および平常点。			
◆テキスト、参考文献 とりあえず、プリント。			

03年度以降 02年度以前	フランスの思想 b フランスの思想	担当者	筒井 伸保
◆講義目的、講義概要 同上		◆授業計画 秋学期は、デカルトの『方法序説』と、パスカルの『パンセ』を扱う。	
◆ 評価方法 同上			
◆テキスト、参考文献 デカルト『方法序説』（谷川多佳子訳）岩波文庫（品切になる可能性があるため必ず早めに手に入れること）			

03年以降 フランスの美術 a 02年以前 フランスの美術	担当者	前川久美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>フランスに限定せず西洋美術史全体を視野に入れ、そのなかにある比較的限定された一つの問題を追及します。全カリ、歴史と文化(III)(西洋美術史)の応用編と考えてください。</p> <p>本年度は「肖像画」について、日本語、仏語、英語の文献を読みながら考えてゆく予定です。</p> <p>一方的な「講義」ではなく、聴講者が積極的に考え、発表、議論してゆきます。毎回必ず予習をして、積極的に授業に参加してください。</p> <p>第一回目に聴講者を決定したいので必ず出席して、許可をとったうえで登録してください。(聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならない可能性もあります)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>平常点(課題への取り組みと成果および発言などの授業への貢献)とテストによる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業中に指示します。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>1 インTRODクシヨン 2~12 文献講読、関連事項についての発表など</p>	

03年以降 フランスの美術 b 02年以前 フランスの美術	担当者	前川久美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>同上</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>同上</p>	<p>◆授業計画</p> <p>1~12 夏休みの課題の発表、文献講読など</p>	

03 年度以降 02 年度以前	フランスの音楽 a フランスの音楽	担当者	松橋麻利
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>クラシック音楽を身近なものにすると同時に、フランス音楽という異なる文化に触れることで、それを鏡にして自己発見のきっかけにするのが目的である。</p> <p>春期は、19 世紀後半の印象主義や象徴主義といった時代思潮に照らし合わせて音楽を見る。そしてそれが20 世紀音楽の新しい潮流をどのように作り出していくのかを、ドイツ語圏やその他の国の音楽と比較しながら辿っていく。</p> <p>できるだけ実際の音、楽譜、映像などを活用し、プリントを配布しながら進めていく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と期末試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>参考文献：グラウト／パリスカ著『新西洋音楽史』下（音楽之友社）。その他は授業時に紹介。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.印象主義絵画と音楽 1 2.印象主義絵画と音楽 2 3.印象主義絵画と音楽 3 4.象徴主義文学と音楽 1. 5.象徴主義文学と音楽 2 6.象徴主義文学と音楽 3. 7.象徴主義文学と音楽 4 8.シェーンベルクの十二音技法 1 9.シェーンベルクの十二音技法 2 10.シェーンベルクの後継者たち 11.ストラヴィンスキー1 12.ストラヴィンスキー2 	

03 年度以降 02 年度以前	フランスの音楽 b フランスの音楽	担当者	松橋麻利
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>クラシック音楽を身近なものにすると同時に、フランス音楽という異なる文化に触れることで、それを鏡にして自己発見のきっかけにするのが目的である。</p> <p>秋期は、ドビュッシー以後の20 世紀フランスの代表的な作曲家を中心に、その他の国、および第二次大戦後の日本人作曲家も見ていく。</p> <p>できるだけ実際の音、楽譜、映像などを活用し、プリントを配布しながら進めていく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と期末試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>参考文献：P. グリフィス著『現代音楽小史』（音楽之友社）。その他は授業時に紹介。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.サティ 2.サティとフランス六人組の理念 3.フランス六人組 1 4.フランス六人組 2 5.フランス六人組 3 6.メシアン 1 7.メシアン 2 8.ブーレーズ 1 9.ブーレーズ 2 10.ブーレーズとケージ 11.20 世紀後半の動向 1 12.20 世紀後半の動向 2 	

03年度以降 フランスの演劇 a 02年度以前 フランスの演劇	担当者	井村順一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>フランス演劇史のなかで大きな位置を占めるモリエール(1622-1673)の業績について考える。まずフランス古典劇を生んだ17世紀の時代背景と演劇の位置を説明し、ついで演劇人としてこの時代を生きたモリエールの生涯をビデオを用いて解説する。</p> <p>◆評価方法</p> <p>各学期末に論述式の筆記試験を行い、これに出席状況を加味して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『増補 フランス文学案内』(岩波文庫別冊) その他必要に応じ教室で指示する。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 <フランス演劇におけるモリエールの位置> 2 <17世紀フランス> 時代の概観 3 言語の問題 4 アカデミーとサロン 5 劇場と教会 6 <趣味の移行> バロックと古典主義 7 コルネイユとラシーヌ 8 <モリエールの生涯> 幼少期 9 巡業時代 10 パリとヴェルサイユ 11 パリとヴェルサイユ(つづき) 12 <むすび> 	

03年度以降 フランスの演劇 b 02年度以前 フランスの演劇	担当者	井村順一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>フランス演劇史のなかで大きな位置を占めるモリエール(1622-1673)の作品の中から主なものを取りあげて概観する。ついでモリエールの後裔として活動をつづけている、フランス演劇の中心的な存在「コメディ・フランセーズ」につきビデオを用いて解説する。</p> <p>◆評価方法</p> <p>各学期末に論述式の筆記試験を行い、これに出席状況を加味して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『増補 フランス文学案内』(岩波文庫別冊) その他必要に応じ教室で指示する。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 <モリエールの作品> 概観 2 笑劇(ファルス) 3 本格喜劇(グランド・コメディ) 4 本格喜劇(つづき) 5 本格喜劇(つづき) 6 本格喜劇(つづき) 7 コメディ・バレ 8 <コメディ・フランセーズ> 歴史と概観 9 現在の活動 10 現在の活動(つづき) 11 現在の活動(つづき) 12 <むすび> 	

02 年度以前	総合フランス語	担当者	各担当教員																										
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des deux premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Les cassettes des leçons seront distribuées au début de l'année. Le groupe 3-1 utilise <i>Panorama II</i> à partir de la leçon 7 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion II</i> à partir de l'unité 5. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite. <u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Champion II</i> + cahier d'exercices et cassette audio. <i>Panorama II</i> + cahier d'exercices et cassette audio.</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="810 241 1476 1081"> <tr><td>1 <i>Champion</i> unité 5</td><td><i>Panorama</i> leçon 7</td></tr> <tr><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>4 <i>Champion</i> unité 6</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td><i>Panorama</i> leçon 8</td></tr> <tr><td>6</td><td></td></tr> <tr><td>7 <i>Champion</i> unité 7</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td><i>Panorama</i> leçon 9</td></tr> <tr><td>10 <i>Champion</i> unité 8</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2">Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U7 (<i>Champion</i>)</td></tr> </table>		1 <i>Champion</i> unité 5	<i>Panorama</i> leçon 7	2		3		4 <i>Champion</i> unité 6		5	<i>Panorama</i> leçon 8	6		7 <i>Champion</i> unité 7		8		9	<i>Panorama</i> leçon 9	10 <i>Champion</i> unité 8		11		12		Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U7 (<i>Champion</i>)	
1 <i>Champion</i> unité 5	<i>Panorama</i> leçon 7																												
2																													
3																													
4 <i>Champion</i> unité 6																													
5	<i>Panorama</i> leçon 8																												
6																													
7 <i>Champion</i> unité 7																													
8																													
9	<i>Panorama</i> leçon 9																												
10 <i>Champion</i> unité 8																													
11																													
12																													
Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U7 (<i>Champion</i>)																													

02 年度以前	総合フランス語	担当者	各担当教員																										
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des deux premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Les cassettes des leçons seront distribuées au début de l'année. Le groupe 3-1 utilise <i>Panorama II</i> à partir de la leçon 7 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion II</i> à partir de l'unité 5. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite. <u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Champion II</i> + cahier d'exercices et cassette audio. <i>Panorama II</i> + cahier d'exercices et cassette audio.</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="810 1272 1476 2101"> <tr><td>1 <i>Champion</i> unité 9</td><td><i>Panorama</i> leçon 10</td></tr> <tr><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>4 <i>Champion</i> unité 10</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td><i>Panorama</i> leçon 11</td></tr> <tr><td>6</td><td></td></tr> <tr><td>7 <i>Champion</i> unité 11</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td><i>Panorama</i> leçon 12</td></tr> <tr><td>10 <i>Champion</i> unité 12</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2">Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U10 ou 11 (<i>Champion</i>)</td></tr> </table>		1 <i>Champion</i> unité 9	<i>Panorama</i> leçon 10	2		3		4 <i>Champion</i> unité 10		5	<i>Panorama</i> leçon 11	6		7 <i>Champion</i> unité 11		8		9	<i>Panorama</i> leçon 12	10 <i>Champion</i> unité 12		11		12		Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U10 ou 11 (<i>Champion</i>)	
1 <i>Champion</i> unité 9	<i>Panorama</i> leçon 10																												
2																													
3																													
4 <i>Champion</i> unité 10																													
5	<i>Panorama</i> leçon 11																												
6																													
7 <i>Champion</i> unité 11																													
8																													
9	<i>Panorama</i> leçon 12																												
10 <i>Champion</i> unité 12																													
11																													
12																													
Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U10 ou 11 (<i>Champion</i>)																													

02年度以前 フランス語文章表現法

担当者 B. レウルス

◆講義目的、講義概要

授業は、フランス語の広告、ポスター、チラシ、テレビの C.M.、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く・コミュニケーション能力を伸ばしていく。

Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse & médias, publicités, articles de magazines, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de grammaire et de lexique puis exercices d'expression.

◆評価方法

授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。

◆テキスト、参考文献

« Je lis, tu lis... » 「資料で読み解くフランス語」
第三書房 ISBN 4-8086.2105-3

◆授業計画

1. 恋愛の表現 : expression des émotions.
2. 地下鉄でパリ発見! : rencontre en R.E.R.
3. 有名で、誰でも使っている : Bic、仏企業
4. カマンベルから見たフランスグルメ : le Camembert.
5. フランス映画の復活 : Festival de Cannes.
6. ショコラ製造業者 : Gérard MULOT, chocolatier à Paris.
7. ヨーロッパの中のフランス : notre monnaie, l'Euro.
8. インターネット & cyberbook : romans en-ligne
9. Agnès b. « Si j'étais... »

02年度以前 フランス語文章表現法

担当者 B. レウルス

◆講義目的、講義概要

◆評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

02 年度以前	フランス語文章表現法	担当者	C.ヴァンドルディ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div data-bbox="140 253 775 837" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(フランス語文章表現法) Exprimez vos idées en Français</p> <p>A l'aide de la fiche technique – liste de vocabulaire + rappel des structures grammaticales utiles – qui vous sera fournie chaque semaine, vous réviserez, presque sans vous en rendre compte, les formes d'expression déjà acquises et les utiliserez dans des contextes variés. Le but de ce cours est d'apprendre comment exprimer ses idées à l'écrit, qu'il s'agisse d'une simple lettre ou d'une dissertation sur un thème donné.</p> </div> <p>◆ 評価方法</p> <div data-bbox="140 891 775 967" style="border: 1px solid black; height: 34px;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div data-bbox="140 1012 775 1111" style="border: 1px solid black; height: 44px;"></div>		<p>◆授業計画</p>	

02 年度以前	フランス語文章表現法	担当者	C.ヴァンドルディ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div data-bbox="140 1317 775 1921" style="border: 1px solid black; height: 270px;"></div> <p>◆ 評価方法</p> <div data-bbox="140 1966 775 2042" style="border: 1px solid black; height: 34px;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div data-bbox="140 2087 775 2163" style="border: 1px solid black; height: 34px;"></div>		<p>◆授業計画</p>	

02 年度以前	フランス語文章表現法	担当者	M.ミズバヤシ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p>Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
<p>Contrôle continu. Un test à la fin des premier et deuxième semestres. Participation régulière aux cours souhaitée</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS</p>			

02 年度以前	フランス語文章表現法	担当者	M.ミズバヤシ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p>Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
<p>Contrôle continu. Un test à la fin des premier et deuxième semestres. Participation régulière aux cours souhaitée</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS</p>			

02年度以前	フランス語文章表現法	担当者	M. ミュノーズ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>Ce cours a pour objectif de favoriser la production de textes écrits diversifiés répondant à un certain nombre de règles rhétoriques et/ou grammaticales.</p> <p>Au terme de cette année les étudiants devront être plus familiarisés avec :</p> <ul style="list-style-type: none"> - les différentes formes de récits - les techniques et le vocabulaire de la description et de l'argumentation. - les différents niveaux de langues et les styles requis par la communication écrite et orale. <p>Pour atteindre cet objectif les étudiants auront à élaborer des textes structurés faisant appel à l'imagination et impliquant à la fois la maîtrise de formes grammaticales et l'apprentissage de mots et d'expressions nouveaux.</p> <p>A cet effet, au début de chaque cours des textes et des consignes d'écriture seront proposés aux étudiants afin de guider leurs productions.</p> </div>			

02年度以前	フランス語会話	担当者	M. ミュノーズ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div style="border: 1px solid black; height: 280px; width: 100%;"></div>		<p>◆授業計画</p> <div style="border: 1px solid black; height: 390px; width: 100%;"></div>	
<p>◆評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>			

02 年度以前 フランス語文章表現法	担当者	PH. ヴァネ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>On n'écrit pas comme on parle. Pour que le lecteur vous comprenne bien, pour qu'il soit convaincu que vos opinions sont justes ou simplement pour qu'il continue à vous lire, il faut écrire clairement et logiquement en faisant appel à sa raison et à son imagination.</p> <p>Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition. Travail sur le plan. Comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe.</p> <p>Une fois par semestre, chaque étudiant rédige une composition dont le sujet est libre. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Le grand devoir semestriel est noté.</p> <p>◆ 参考文献</p> <p><i>Grammaire du français (Cours de civilisation française de la Sorbonne).</i></p>	<p>◆授業計画</p> <p>1. le 1^{er} semestre consiste en l'étude des articulations logiques.</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5 Remise du devoir (1^{ère} fois)</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8 Remise du devoir (2^e fois)</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11 Remise du devoir (3^e fois)</p> <p>12</p>	

02 年度以前 フランス語文章表現法	担当者	PH. ヴァネ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Voir le premier semestre.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Le grand devoir semestriel est noté.</p> <p>◆ 参考文献</p> <p><i>Rédiger pour convaincre, Laurent JP, Duculot</i></p>	<p>◆授業計画</p> <p>1. le 1^{er} semestre consiste en l'étude de la structure logique des textes (plan).</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5 Remise du devoir (1^{ère} fois)</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8 Remise du devoir (2^e fois)</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11 Remise du devoir (3^e fois)</p> <p>12</p>	

02 年度以前 和文仏訳	担当者	A. ドホス
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>L'objectif de ce cours est d'apprendre à établir une traduction « correcte » en français à partir d'un texte en japonais. En effet, dans le cas de deux langues aussi différentes, on ne peut pas se contenter de traduire « mot à mot », il faut plutôt assimiler le sens du texte japonais et le restituer dans une forme équivalente en français.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Participation au cours – traductions en classe – devoirs</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Photocopies Les étudiants doivent venir à chaque cours avec un BON dictionnaire français/japonais ET japonais/ français.</p>	<p>◆授業計画</p> <p>Le cours sera centré sur deux points principaux.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Traductions « pratiques » de textes variés. 2. Sur cette base, étude plus « théorique » de plusieurs points difficiles dans le domaine de la traduction (utilisation correcte des dictionnaires, différences de formulations de la phrase dans les deux langues, etc.) <p>Bien évidemment, certains problèmes plus grammaticaux (principalement les prépositions, la conjugaison et les articles) seront également abordés. Le déroulement pratique du cours ainsi que les thèmes abordés seront fonction du nombre des étudiants, de leur niveau général et même, pour ce qui est des thèmes, éventuellement de leurs centres d'intérêt. Ce point sera précisé au début de l'année.</p>	

02 年度以前 和文仏訳	担当者	A. ドホス
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>L'objectif de ce cours est d'apprendre à établir une traduction « correcte » en français à partir d'un texte en japonais. En effet, dans le cas de deux langues aussi différentes, on ne peut pas se contenter de traduire « mot à mot », il faut plutôt assimiler le sens du texte japonais et le restituer dans une forme équivalente en français.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Participation au cours – traductions en classe – devoirs</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Photocopies Les étudiants doivent venir à chaque cours avec un BON dictionnaire français/japonais ET japonais/ français.</p>	<p>◆授業計画</p> <p>Le cours sera centré sur deux points principaux.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Traductions « pratiques » de textes variés. 2. Sur cette base, étude plus « théorique » de plusieurs points difficiles dans le domaine de la traduction (utilisation correcte des dictionnaires, différences de formulations de la phrase dans les deux langues, etc.) <p>Bien évidemment, certains problèmes plus grammaticaux (principalement les prépositions, la conjugaison et les articles) seront également abordés. Le déroulement pratique du cours ainsi que les thèmes abordés seront fonction du nombre des étudiants, de leur niveau général et même, pour ce qui est des thèmes, éventuellement de leurs centres d'intérêt. Ce point sera précisé au début de l'année.</p>	

02 年度以前	和文仏訳	担当者	小石 悟
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>和仏辞典を片手に逐語訳をしてもフランス語にはなりません。この授業では日本語のテキストから出発して、自分の知っている構文を使いながら、省略、追加、倒置、言い換えなどを行い、いかにフランス人に分かるようなフランス語を書くかを学びます。</p> <p>作文を上達するためには、一にも二にも書いて直してもらいしかありません。自分が書いてきた文を全員で考えながらできるだけ良いフランス語に直していきます。不足している文法項目はその都度学習していきます。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>長いテキストを訳していくので、その時間の難易度によって変わります。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>平常点と試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『コレクション・フランス語「書く」』（白水社） 『謎がとけるフランス語』（第三書房）</p>			

02 年度以前	和文仏訳	担当者	小石 悟
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>			

02年度以前	フランス語会話	担当者	C.ヴァンドルディ
◆講義目的、講義概要 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (フランス語会話) Conversation Abordant chaque séance un thème – musique, cinéma, mode de vie, politique... – ou une situation nouvelle, ce cours doit permettre à ceux qui le suivent de se débrouiller dans n'importe quelle situation de la vie quotidienne, mais aussi pour les plus avancés, d'avoir une conversation riche, construite et poussée avec des Francophones. </div>		◆授業計画	
◆評価方法 <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
◆テキスト、参考文献 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>			

02年度以前	フランス語会話	担当者	C.ヴァンドルディ
◆講義目的、講義概要 <div style="border: 1px solid black; height: 250px; width: 100%;"></div>		◆授業計画	
◆評価方法 <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
◆テキスト、参考文献 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>			

02 年度以前	フランス語会話	担当者	C. ヴァリエヌ
---------	---------	-----	----------

Il y a environ 24 séances dont 2 consacrées aux examens.

OBJECTIFS ET DEROULEMENT :

Favoriser l'expression orale sous la forme d'exposés, de questions et de débats.

Les différentes activités orales sont les suivantes :

- « Le tour de table » (20 minutes)

Les étudiants raconteront chacun leur tour, ce qu'ils ont fait, ce qui leur est arrivé de particulier ou les projets qu'ils ont. Il s'agit ici d'une prise de parole libre.

- Le Thème (30 minutes)

Chaque semaine un thème sera proposé (par exemple : les vacances, la peinture, le cinéma, les études, etc...). Les étudiants devront chercher des mots dans le dictionnaire. Tout le vocabulaire et les expressions seront mis en commun et complétés par le professeur.

A travers les différents thèmes, certains points de grammaire seront révisés.

- Les débats (40 minutes)

Il s'agira de participer à une discussion sur le thème en donnant son opinion et en comparant quand c'est possible la France et le Japon

- Les devoirs

Les étudiants devront écrire un petit texte sur le thème du jour en utilisant le maximum d'expressions données pendant la classe.

- L'examen

A chaque fin de semestre, les étudiants seront interrogés, l'un après l'autre, sous forme de conversation avec le professeur qui choisira un des thèmes étudiés pendant les cours. L'étudiant devra parler pendant 5 minutes.

En fin d'année vous aurez acquis de nouvelles connaissances grammaticales, lexicales et culturelles.

--	--	--	--

02 年度以前	フランス語会話	担当者	C. ヴァリエヌ
---------	---------	-----	----------

◆ 講義目的、講義概要

◆ 評価方法

◆ テキスト、参考文献

◆ 授業計画

02 年度以前	フランス語会話	担当者	F. ルーセル
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>L'objectif de ce cours est de vous aider à faire des progrès à l'oral en français (aussi bien en « compréhension » qu'en « expression »)</p> <p>Chaque cours comportera en principe trois séquences :</p> <p>1) Une séquence de parole libre (« Quoi de neuf ? »), où chacun s'exprimera sur un mode le plus proche possible de celui de la conversation authentique.</p> <p>2) Une activité collective mobilisant et développant les compétences orales, activité en principe basée sur un document (imprimé ou matériel sonore etc.), fourni chaque semaine par l'enseignant. Les activités proposées seront aussi variées que possible, selon les besoins, les desiderata, et les capacités du groupe.</p> <p>3) La présentation à la classe, par un(e) étudiant(e), d'un travail préparé à l'avance (chacun devra notamment produire chaque semestre un « exposé » sur un aspect de la culture ou de la société japonaises)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Le travail personnel et la participation active et régulière aux activités de classe seront le plus important. Il y aura aussi des petits tests ponctuels.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Pas de manuel à acheter.</p>		<p>◆授業計画</p>	

02 年度以前	フランス語会話	担当者	F. ルーセル
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

02年度以前	フランス語会話	担当者	H.ドリエップ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Le but de ce cours est d'aider les étudiants à progresser afin qu'ils puissent s'exprimer de manière naturelle dans des situations de vie courante en France.</p> <p>Divisés par groupes selon leur nombre, ils choisiront un sujet de débat parmi un éventail de thèmes faciles et tirés de la vie quotidienne proposés par le professeur. Après une préparation de quelques minutes, ils exposeront leurs arguments pour essayer de convaincre l'autre partie de leur groupe.</p> <p>Suivant l'actualité et les désirs de chacun, nous pourrons aussi passer quelques minutes à discuter de ce qui se passe dans le monde ou dans la vie quotidienne des étudiants.</p>			
◆ 評価方法			
Une participation active sera bienvenue. Le mode d'évaluation sera décidé ensemble.			
◆テキスト、参考文献			
Pas de manuel à acheter.			

02年度以前	フランス語会話	担当者	H.ドリエップ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
同上			
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

02 年度以前	フランス語会話	担当者	L. フォンテーヌ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Ce cours met l'accent sur la compréhension auditive, la prononciation et l'expression orale. Nous suivons la progression du manuel choisi, "Exercices d'oral en contexte", qui est de niveau intermédiaire. Chaque chapitre du manuel propose des documents sonores qu'une série de questions aide à décrypter; viennent ensuite quelques exercices de prononciation; puis une section où l'étudiant joue différentes situations d'après des scénarios qu'il invente, s'inspirant des documents sonores écoutés au début de la leçon.</p> <p>L'étudiant sera évalué d'après sa participation aux cours et les efforts fournis tout au long de la session; il y aura aussi un petit examen oral pour mesurer ses progrès en compréhension et prononciation.</p> <p><i>Exercices d'oral en contexte, niveau intermédiaire, Hachette Livre, FLE, Paris, 2002</i></p>			

02 年度以前	フランス語会話	担当者	L. フォンテーヌ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p>◆ 評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 350px; width: 100%;"></div>	

02 年度以前	フランス語会話	担当者	M.ミズバヤシ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Objectif :</p> <p>Ce cours a pour objectif l'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p>		<p>Contenu :</p> <p>Nous travaillerons à partir d'articles de presse, qui évoquent la vie quotidienne des Français et des Japonais d'aujourd'hui. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à tous les types d'exercices proposés.</p> <p>Comme il n'est pas facile de prendre la parole en français, notre séance de conversation commencera généralement par un petit tour de table afin d'échanger les nouvelles de la semaine passée. Cette première partie du cours est une sorte d'échauffement indispensable pour perdre, en l'espace de 90 minutes, sa langue japonaise. Voilà, on va s'efforcer d'oublier le japonais pour laisser place aux mots français.</p>	
<p>Un exposé sur un sujet de son choix à faire vers la fin de l'année universitaire.</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Photocopies Venir si possible avec un dictionnaire français.</p>			

02 年度以前	フランス語会話	担当者	M.ミズバヤシ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Objectif :</p> <p>Ce cours a pour objectif l'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p>		<p>Contenu :</p> <p>Nous travaillerons à partir d'articles de presse, qui évoquent la vie quotidienne des Français et des Japonais d'aujourd'hui. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à tous les types d'exercices proposés.</p> <p>Comme il n'est pas facile de prendre la parole en français, notre séance de conversation commencera généralement par un petit tour de table afin d'échanger les nouvelles de la semaine passée. Cette première partie du cours est une sorte d'échauffement indispensable pour perdre, en l'espace de 90 minutes, sa langue japonaise. Voilà, on va s'efforcer d'oublier le japonais pour laisser place aux mots français.</p>	
<p>Un exposé sur un sujet de son choix à faire vers la fin de l'année universitaire.</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Photocopies Venir si possible avec un dictionnaire français.</p>			

◆講義目的、講義概要

Le point de départ de la conversation sera la lecture progressive du roman de Marie Nimier. La syntaxe et le vocabulaire retiendront tout particulièrement notre attention.

◆評価方法

Contrôle continu
(participation orale, résumés écrits...)

◆テキスト、参考文献

La Caresse de Marie Nimier
Folio Gallimard 1994

◆授業計画

1.	de 0 à 1	→	p. 19	édition Folio
2.	de 2 à 3	→	p. 24	
3.	4	→	p. 29	
4.	de 5 à 8	→	p. 35	
5.	de 9 à 10	→	p. 38	+ rétrospective
6.	de 11 -	→	p. 47	
7.	12	→	p. 50	
8.	de 13 à 15	→	p. 55	
9.	16 à 18	→	p. 61	
10.	19 à 20	→	p. 68	
11.	21 à 22	→	p. 71	
12.	Rétrospective			

◆講義目的、講義概要

Le point de départ de la conversation sera la lecture progressive du roman de Marie Nimier. La syntaxe et le vocabulaire retiendront tout particulièrement notre attention.

◆評価方法

Contrôle continu
(participation orale, résumés écrits...)

◆テキスト、参考文献

La Caresse de Marie Nimier
Folio Gallimard 1994

◆授業計画

1.	23	→	p. 77
2.	24 → 28	→	p. 81
3.	29 à 31	→	p. 89
4.	32 à 35	→	p. 95
5.	36 à 37	→	p. 100
6.	Rétrospective		
7.	38 à 41	→	p. 106
8.	42 à 43	→	p. 113
9.	44 à 45	→	p. 121
10.	46 à 48	→	p. 131
11.	49 à 56	→	p. 140
12.	57 à 59	→	p. 146 + rétrospective

02年度以前	フランス語会話	担当者	セルジュ・ジュンタ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>実用フランス語技能検定試験の受験者が年々ふえてきています。この仏検の準備をかねて、「話す、書く、聞く、読む」という言葉本来の機能を総合的に身につけます。このクラスは仏検の復習と、1～2級の準備を目的とし、補助教材としてビデオを使用。</p> <p>本年度のテーマはフランス料理、特にプロヴァンス料理の数々を生きたフランス語で学びます。簡単なレシピの説明（オニオンスープ、プロヴァンス風シャンピニオン、チョコレートムースなど）もありますので、自宅では是非、フランス語を理解しながら試してみてください。必要に応じ日本語で説明します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p><i>Le créateur en obligeant l'homme à manger pour vivre, l'y invita par l'appétit et l'en récompensa par le plaisir.</i> Brillat-Savarin · <i>La physiologie du goût</i></p> <p>Dans ce cours, nous découvrirons ce fascinant et inexhaustible sujet qu'est la gastronomie. Les huit recettes ci-dessous seront également présentées en cours d'année.</p> <p>MENU 2004</p> <p>LA SOUPE A L'OIGNON</p> <p>LA SOUPE DE COURGE</p> <p>LES CHAMPIGNONS A LA GRECQUE</p> <p>LA CERVELLE DE CANUTS</p> <p>LES ROUGETS "BONNE FEMME"</p> <p>LE BŒUF BOURGUIGNON</p> <p>LA CREME CAMEL</p> <p>LA MOUSSE AU CHOCOLAT</p> <p>BON APPETIT !</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業への参加態度による評価（定期試験はなし。エヴァルーションテストを授業中に行う。）</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>カイエ・ティマティックー1 四季の料理 第三書房</p>			

02年度以前	フランス語会話	担当者	セルジュ・ジュンタ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>実用フランス語技能検定試験の受験者が年々ふえてきています。この仏検の準備をかねて、「話す、書く、聞く、読む」という言葉本来の機能を総合的に身につけます。このクラスは仏検の復習と、1～2級の準備を目的とし、補助教材としてビデオを使用。</p> <p>本年度のテーマはフランス料理、特にプロヴァンス料理の数々を生きたフランス語で学びます。簡単なレシピの説明（オニオンスープ、プロヴァンス風シャンピニオン、チョコレートムースなど）もありますので、自宅では是非、フランス語を理解しながら試してみてください。必要に応じ日本語で説明します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p><i>Le créateur en obligeant l'homme à manger pour vivre, l'y invita par l'appétit et l'en récompensa par le plaisir.</i> Brillat-Savarin · <i>La physiologie du goût</i></p> <p>Dans ce cours, nous découvrirons ce fascinant et inexhaustible sujet qu'est la gastronomie. Les huit recettes ci-dessous seront également présentées en cours d'année.</p> <p>MENU 2004</p> <p>LA SOUPE A L'OIGNON</p> <p>LA SOUPE DE COURGE</p> <p>LES CHAMPIGNONS A LA GRECQUE</p> <p>LA CERVELLE DE CANUTS</p> <p>LES ROUGETS "BONNE FEMME"</p> <p>LE BŒUF BOURGUIGNON</p> <p>LA CREME CAMEL</p> <p>LA MOUSSE AU CHOCOLAT</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業への参加態度による評価（定期試験はなし。エヴァルーションテストを授業中に行う。）</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>カイエ・ティマティックー1 四季の料理 第三書房</p>			

02 年度以前	時事フランス語	担当者	井上美穂
◆講義目的、講義概要 授業の目的は、テレビ・新聞・インターネット上のフランス語による情報から、自分の知りたいことを取り出せるようになることです。そのため、授業では次の3つの作業を行います。 (1) ニュース番組のききとり France 2 というフランスのニュース番組の録画を、パソコン上の動画で見て、ききとり練習を行います。 (2) ホームページでの情報さがし (1)のニュースと同じテーマのホームページ(フランス語で書かれたもの)を見て、情報を捜します。 (3) 中高生向け新聞の読解 (1)(2)と同じテーマの新聞記事を、中高生向け新聞で読みます。		◆授業計画 取り扱うニュースの内容は、毎週変わります。基本的に、1～2週間以内の最新的话题をとりあげます。2003 年度春学期に扱ったニュースを以下に紹介します。	
◆ 評価方法 単位取得には75%以上の出席率が必要です。評価はテストの得点で決めます。		<ol style="list-style-type: none"> 1 シラク大統領就任1周年 2 エビアン・サミット 3 テニス フレンチオープン 4 引退と年金 5 5月1日とは 6 千と千尋の神隠し 7 カメルーンのサッカー選手突然死 8 ワイン 9 原子力エネルギー 10 新型肺炎SARS 11 イラク戦争とフランスの拒否権 12 超音速旅客機コンコルド 13 カフェインレス・コーヒー 14 高速鉄道TGV 	
◆テキスト、参考文献 授業時に配布します。			

02 年度以前	時事フランス語	担当者	井上美穂
◆講義目的、講義概要 授業の目的は、テレビ・新聞・インターネット上のフランス語による情報から、自分の知りたいことを取り出せるようになることです。そのため、授業では次の3つの作業を行います。 (1) ニュース番組のききとり France 2 というフランスのニュース番組の録画を、パソコン上の動画で見て、ききとり練習を行います。 (2) ホームページでの情報さがし (1)のニュースと同じテーマのホームページ(フランス語で書かれたもの)を見て、情報を捜します。 (3) 中高生向け新聞の読解 (1)(2)と同じテーマの新聞記事を、中高生向け新聞で読みます。		◆授業計画 取り扱うニュースの内容は、毎週変わります。基本的に、1～2週間以内の最新的话题をとりあげます。2003 年度秋学期に扱ったニュースを以下に紹介します。	
◆ 評価方法 単位取得には75%以上の出席率が必要です。評価はテストの得点で決めます。		<ol style="list-style-type: none"> 1 エールフランス、KLMと統合 2 夏の猛暑で死者多数 3 マグレブ3国 4 仏独関係 5 スイスで総選挙 6 寿司が人気 7 ベルサイユ宮殿改築工事決定 8 通貨ユーロと財政安定化協定 9 イスラム教とスカーフ問題 10 イラク情勢 11 ハリーポッター 12 クリスマス 13 狂牛病 	
◆テキスト、参考文献 授業時に配布します。			

02年度以前	時事フランス語	担当者	横地卓哉
◆講義目的、講義概要 講義目的： フランス語で書かれた時事的な文章の内容を正確に把握できるようにする。 講義概要・授業内容： テキストとしては中学・高校生向けの週刊新聞 <i>Les Clés de l'actualité</i> の最新の記事を取りあげる。 テキストは事前に配布する。授業では特にキーワードに注目し、討論をまじえながら内容の把握をはかる。 文法事項等、必要な解説は加えるが、いわゆる「講読」（仏文和訳）の授業ではない。少なくとも各自が疑問点を明らかにし、問題意識をもった上で授業にのぞむことが要求される。 主として大学図書館・フランス語学科共同研究室で閲覧可能な新聞・雑誌、インターネットでアクセス可能なメディアの紹介もおこなう。		◆授業計画 第1回目はガイダンスとし、授業の進め方、受講者への要望などについての説明、参考文献の紹介をおこなう。 第2回目以降は、受講者の能力を考慮した上で、できるだけ多くのテキストをとりあげたい。	
◆ 評価方法 授業への参加度、レポート、定期試験による。			
◆テキスト、参考文献 テキストはプリントで配布。 参考文献は授業時に紹介する。			

02年度以前	時事フランス語	担当者	横地卓哉
◆講義目的、講義概要 テキストとして、フランスの日刊紙の中で最も程度が高いとされる <i>Le Monde</i> の最新記事を取りあげる予定。		◆授業計画	
◆ 評価方法 春学期に同じ			
◆テキスト、参考文献 春学期に同じ			

02年度以前	商業フランス語	担当者	C. パジェス
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて口頭及び文書で対応できる力を身につけることを目的とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話対応、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>平常点及びレポート（期末）</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント</p>		<p>◆授業計画</p>	

02年度以前	商業フランス語	担当者	C. パジェス
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

02年度以前	商業フランス語	担当者	大井正博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日常会話のクラスではどうしても一定のパターンを覚えることに専念してしまう。このクラスでは実社会の特定のシチュエーションにおいて、自分の考えをどう述べるかを学習する。ビジネス用語を覚えるということよりも、むしろ簡単な表現の意味を正確に理解できるようにする。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マスコミ 2 宣伝用コピー 3 テレビ 4 効果的な宣伝 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>出席、試験による。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>J.-L.Billon et H.Gaborieau, "Grammaire et Pratique de la Langue, 3e collèges", Hachette</p>			

02年度以前	商業フランス語	担当者	大井正博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日常会話のクラスではどうしても一定のパターンを覚えることに専念してしまう。このクラスでは実社会の特定のシチュエーションにおいて、自分の考えをどう述べるかを学習する。ビジネス用語を覚えるということよりも、むしろ簡単な表現の意味を正確に理解できるようにする。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各種時制の使い分け 2 一定表現の言換え 3 nominalisation 4 要約練習 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>出席、試験による。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>J.-L.Billon et H.Gaborieau, "Grammaire et Pratique de la Langue, 3e collèges", Hachette</p>			

02 年度以前	フランス語学概論	担当者	古川直世
<p>◆講義目的、講義概要 講義目的：フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを通し伝えることを目指す。このように「考える」訓練によってフランス語という言葉に対する知的好奇心を引き出し、フランス語学習へのさらなる動機付けを与えることを目標とする。</p> <p>講義概要：フランス語学における大きなトピックを前期と後期にひとつずつ設定し講義を行う。ふたつの大きなトピックを通して出来る限りフランス語学の全般的な具体的な知識を得ることができるよう努める。講義の重点は、フランス語に見られる様々な制約の存在理由について考えることにある。</p> <p>◆ 評価方法 試験と出席状況による。</p> <p>◆テキスト、参考文献 ハンドアウトを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全般的なオリエンテーション 2- 4. 代名詞 (1)：名詞と代名詞 5- 7. 代名詞 (2)：人称代名詞と中性代名詞 8- 10. 代名詞 (3)：代名詞と照応 11. 代名詞 (4)：先行詞の位置 12. 前期のまとめ 	

02 年度以前	フランス語学概論	担当者	古川直世
<p>◆講義目的、講義概要 講義目的：フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを通し伝えることを目指す。このように「考える」訓練によってフランス語という言葉に対する知的好奇心を引き出し、フランス語学習へのさらなる動機付けを与えることを目標とする。</p> <p>講義概要：フランス語学における大きなトピックを前期と後期にひとつずつ設定し講義を行う。ふたつの大きなトピックを通して出来る限りフランス語学の全般的な具体的な知識を得ることができるよう努める。講義の重点は、フランス語に見られる様々な制約の存在理由について考えることにある。</p> <p>◆ 評価方法 試験と出席状況による。</p> <p>◆テキスト、参考文献 ハンドアウトを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 13- 15. 構文 (1)：非人称構文 16- 18. 構文 (2)：使役構文 19- 21. 構文 (3)：受動態構文 22- 23. 構文 (4)：その他の構文 24. 後期のまとめ 	

02年度以前	フランス語史	担当者	山田秀男
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>フランス語の文法を学んでも、何故そうなるのかわからないことが、誰でも少なからずあるだろう。例えば、travailの複数形はtravauxでありfemmeは[ファム]と発音するのだと教えられても、何故そうなるのかは誰も教えてくれないだろう。</p> <p>そこで、現代フランス語が形成されていく過程を見ることによって、こうした疑問点を解明し、フランス語に関する知識と理解を一段と深めることを目指します。</p> <p>すなわち、フランス語の母体であるラテン語から出発し、さまざまな時代の多くの人々の努力によって、現代フランス語が形成されるまでの主要な流れを概観する。</p> <p>具体的には、まず、各時代のフランス語の特徴を理解するため、それぞれの時代の「歴史的背景・社会的状況」を概観した後、その時代のフランス語を、「語彙」、「発音と綴り字」、「文法・統語論」といった具体的な面から検討する。そのあとで、各時代を代表する作家の作品の抜粋を取り上げて、その時代のフランス語の文章の実例を見ることにより、それぞれの時代のフランス語の特徴を確認していく。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一年間の講義方針、講義内容から、使用テキストや評価方法など全般の説明。 2 フランス語の母体である古典ラテン語を中心に、それを取り巻く社会の状況や歴史の流れを概観する。 3 俗ラテン語(1) 古典ラテン語が次第に退化して、俗ラテン語ができあがっていく過程を見る。 4 俗ラテン語(2) 俗ラテン語がさらに変化し、古典ラテン語から一段と離れていく状態を見る。 5 古フランス語(1) 俗ラテン語からフランス語の最も初期の状態へと変わっていく状況を見る。 6 古フランス語(2) 古フランス語が広く使われると同時にますます変化していく様相を見る。 7 古フランス語(3) 古フランス語による代表的作品『ローランの歌』と『オーカッサンとニコレット』の引用を読む。 8 中期フランス語(1) 古フランス語が変化し、中期フランス語となり、その重要性が増していく状況を見る。 9 中期フランス語(2) 中期フランス語の実例として、デュ・ベレーとモンテーニュの文章の引用を検討する。 10 古典フランス語(1) 近代フランス語の始まりといわれる十七世紀のフランス語を取り巻く状況を見る。 11 古典フランス語(2) 十七世紀のフランス語がどのようにして確立されていくかを見る。 12 古典フランス語(3) ヴォージュラとパスカルの実例による引用によって、古典フランス語の実例を見る。 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>評価は、出席を中心とした平常点と定期試験とによる。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>山田 秀男 著：『フランス語史』、駿河台出版社。 参考文献は、必要に応じて指示・紹介する。</p>			

02年度以前	フランス語史	担当者	山田秀男
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期に同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 十八世紀フランス語(1) 十八世紀フランス語の歴史的背景と社会状況を見る。 2 十八世紀フランス語(2) 十八世紀フランス語の具体的な状態を検討する。 3 十八世紀フランス語(3) ヴォルテールとルソーの引用によって、十八世紀フランス語の実例を見る。 4 十九世紀フランス語(1) 十九世紀の歴史的な背景と社会状況を概観する。 5 十九世紀フランス語(2) 十九世紀フランス語の状態をさまざまな見地から検討する。 6 十九世紀フランス語(3) ユゴーとリトレの文章の引用によって、十九世紀フランス語の実例を見る。 7 二十世紀フランス語(1) 第一次世界大戦以降のフランスの歴史的背景・社会状況を概観する。 8 二十世紀フランス語(2) 二十世紀フランス語の特徴をさまざまな角度から検討する。 9 現代フランス語(1) 二十世紀フランス語と現代フランス語との相違点・問題点の検討。 10 現代フランス語(2) 現代フランス語の特質とその変化の傾向について検討する。 11 現代フランス語(3) 現代語の大きな特徴の一つであり、現代社会に不可欠な略語について検討する。 12 質疑応答による補足説明と全体のまとめ。 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>春学期に同じ</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春学期に同じ</p>			

02 年度以前	フランス文学史	担当者	江花輝昭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>17 世紀を中心として西ヨーロッパではその前後に革命的とも言える世界観・人間観の変化が起こり、いわゆる「近代」が始まりました。その後この西欧近代システムが世界を覆いつくしたことを考えれば、現在のわれわれが置かれた状況をトータルに把握するためには、西欧近代の源流を探求し、それを理解する努力をすることが必要です。</p> <p>この講義では、具体的な文学作品の考察を通して、フランスを中心とした西欧近代初期（16 世紀～18 世紀）における世界観・人間観のドラマチックな変化の道筋をたどり、その意味を考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要の説明 2 古代・中世における世界観・人間観（その 1） 3 古代・中世における世界観・人間観（その 2） 4 ルネサンスにおける変化（その 1） 5 ルネサンスにおける変化（その 2） 6 ルネサンスにおける変化（その 3） 7 近代の胎動（1598-1623） 8 バロック時代における個人と世界（17 世紀前半～その 1） 9 バロック時代における個人と世界（17 世紀前半～その 2） 10 フロンドの乱の周辺（17 世紀中庸～その 1） 11 フロンドの乱の周辺（17 世紀中庸～その 2） 12 パスカルとラ・ロシュフーコー 	
◆ 評価方法			
<p>学期末レポート。ただし、出席率の悪い場合には評価対象外とする。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>なし</p>			

02 年度以前	フランス文学史	担当者	江花輝昭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>17 世紀を中心として西ヨーロッパではその前後に革命的とも言える世界観・人間観の変化が起こり、いわゆる「近代」が始まりました。その後この西欧近代システムが世界を覆いつくしたことを考えれば、現在のわれわれが置かれた状況をトータルに把握するためには、西欧近代の源流を探求し、それを理解する努力をすることが必要です。</p> <p>この講義では、具体的な文学作品の考察を通して、フランスを中心とした西欧近代初期（16 世紀～18 世紀）における世界観・人間観のドラマチックな変化の道筋をたどり、その意味を考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 前期の総括と後期授業概観 2 絶対王政の確立期（17 世紀後半～その 1） 3 絶対王政の確立期（17 世紀後半～その 2） 4 ボシュエ、ラ・フォンテーヌ、モリエール 5 ラシーヌ、ラファイエット夫人 6 理性・権威・神 7 経済の勝利 8 近代的世界観・人間観の確立と抵抗（18 世紀～その 1） 9 近代的世界観・人間観の確立と抵抗（18 世紀～その 2） 10 近代的世界観・人間観の確立と抵抗（18 世紀～その 3） 11 ルソーとサド 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
<p>学期末レポート。ただし、出席率の悪い場合には評価対象外とする。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>なし</p>			

02年度以前	フランス語学各論	担当者	小石 悟
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>冠詞のないフランス語はありませんが、冠詞は日本語にないために日本人にとっては最もやっかいな問題です。フランス語がかなり上達しても冠詞は最後まで問題になります。できるだけ早い時期に冠詞に対する感受性を養う必要があります。説明と多様な練習問題を通して、冠詞およびその他の限定詞、無冠詞についての理解を深めたいと思います。</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>試験</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント</p>			

02年度以前	フランス語学各論	担当者	小石 悟
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>論理的な文を書くために必要な文法を学習します。多少とも論理的な文を書こうとすると、原因、結果、譲歩、目的、仮定など文と文との関係を示す表現が必要になります。品詞的には接続詞、前置詞、動詞など多様な表現を使い分ける必要があります。すべての項目を取り上げることは不可能なので、特に原因、結果、譲歩を表す表現を中心に学習します。</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>試験</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント</p>			

02 年度以前	フランス文学各論	担当者	根本祐徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標 今年度も昨年度に続いてフランス恋愛小説入門ということで、多くの小説を日本語とフランス語で読んでもらいます。受講者には出来るだけフランスの小説に親しんでほしいと思っています。</p> <p>講義の概要 アベ・プレヴォー『マノン・レスコー』、ラクロ『危険な関係』、スタンダール『赤と黒』、オノレ・ド・バルザック『谷間の百合』、フロベール『ボヴァリー夫人』などの作品を解説を加えてながら読んでいき、登場人物の心理と行動を考察していきます。</p> <p>作品の文庫本がたやすく手に入り、かつ Adobe Acrobat Reader の PDF で原文が読める作品を選びました。講義の進めについては、最初の授業で話します。履修希望者は必ず出席してください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前・後期のレポートと平常点(参加度など)によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『マノン・レスコー』(新潮文庫・岩波文庫)『危険な関係』(岩波文庫)『赤と黒』(新潮文庫・岩波文庫)『谷間の百合』(新潮文庫)『ボヴァー夫人』(新潮文庫・岩波文庫)</p>		<p>◆授業計画</p>	

02 年度以前	フランス文学各論	担当者	根本祐徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

02 年度以前	フランス語学講読	担当者	小石 悟
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>読むための文法ではなく、書くために必要な文法は何かを考える。 フランス語を書いてみると、今までの文法だけでは不足していると思われることがよくあります。この授業では、そのような欠落している部分を補いながら、なおざりにされていた文法項目について考えて行きます。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全体的な説明。プリント配布 2. いくつかの動詞の用法 3. " 4. 時を表す前置詞 5. 場所を表す前置詞 6. " 7. " 8. 手段を表す前置詞 9. " 10. 属詞を導く de 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>テスト</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>			

02 年度以前	フランス語学講読	担当者	小石 悟
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 形容詞の位置と意味 2. " 3. 副詞の種類と位置 4. " 5. 時制と法 6. 関係代名詞と法 7. 中性代名詞、二重代名詞 8. 関係代名詞、二重関係代名詞 9. articulateurs (en effet, en fait, etc.) 10. " 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>			

02年度以前 フランス語学講読	担当者	田桐正彦
<p>◆講義目的、講義概要 フランス語文法の復習の授業です。 プリントの練習問題をやっていきます。</p> <p>◆評価方法 試験の成績と出席状況で評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 プリントを配布します。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、次回のプリント配布 2 人称代名詞 3 中性代名詞 (le, y, en) 4 関係代名詞 5 疑問代名詞 6 疑問形容詞・疑問副詞 7 不定代名詞 8 冠詞の縮約と部分冠詞 9 前置詞、前置詞句 10 接続詞、接続詞句 11 補遺 (savoir と connaître, tout, si) 12 試験 	

02年度以前 フランス語学講読	担当者	田桐正彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p style="text-align: center;">同 上</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 直説法の時制 (1) 2 直説法の時制 (2) 3 直説法の時制 (3) 4 仮定・条件の表現 5 接続法 (1) 6 接続法 (2) 7 能動態と受動態 8 直接話法と間接話法 9 時制総合演習 (1) 10 時制総合演習 (2) 11 時制総合演習 (3) 12 試験 	

02年度以前	フランス語学講読	担当者	山田秀男
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講読の授業で目指すところはただ一つである。それは、「辞書を引けば、どんなフランス語の文でも読めるような力をつけること」以外にはないだろう。いうまでもなく、この目的を達成することは容易ではない。なんとかこれに一步でも近づくためには、着実な努力を積み重ねていく以外に道はない。</p> <p>まず最初は、勉強の仕方、問題点の調べ方、どのような文献や辞書があり、それらをどのように利用すればよいか、といったことから始め、質疑応答なども交えて、疑問点を残さないようにして進めていき、次第に本格的な講読へと入っていくようにしたい。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>第一回目の授業では、一年間の授業の進め方、使用テキストや評価方法の説明など具体的な情報を可能な限り提供する。</p> <p>履修の意向のある者は、第一回目の授業に必ず出席すること。受講者の人数制限もあり得るので、これに出席しなかった者の登録は、認められない。</p> <p>第二回目以降は、前もって割り当てておいた順番に従って、担当箇所の和訳と説明をやってもらい、質問が出た場合は、それに答えてもらうというやり方で進めていく。</p> <p>なお、授業の進め方は秋学期も同様である。</p>	
<p>◆評価方法</p> <p>出席を重視し、出席点を高くする。それと、年に何回か担当してもらい、その内容とで評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはコピーを使用し、参考文献は、必要に応じて指示・紹介する。</p>			

02年度以前	フランス語学講読	担当者	山田秀男
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期に同じ。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春学期に同じ。</p>	
<p>◆評価方法</p> <p>春学期に同じ。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春学期に同じ。</p>			

02 年度以前	フランス文学講読	担当者	M.ミズバヤシ
<p>Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>D'abord, nous lirons ensemble <i>Le Tablier Bleu</i> de Martine Laffon. Ce texte nous raconte avec une très grande poésie la vie de Louise, une vie bien ordinaire et bien solitaire. Au cours de cette lecture nous aurons l'occasion de réfléchir au sort des personnes âgées abandonnées par notre société ayant le culte de la jeunesse éternelle.</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises.</p> <p>Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ».</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>Présence régulière aux cours.</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Photocopie Un dictionnaire FRANÇAIS</p>			

02 年度以前	フランス文学購読	担当者	M.ミズバヤシ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Nous continuerons la lecture de notre texte principal <i>Le Tablier Bleu</i> de Martine Laffon, avec la ferme intention d'aller jusqu'au bout de cette histoire très émouvante. Puis, nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, tout seul, pendant les « grandes vacances ». Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes afin de parvenir à une meilleure communication.</p>	
<p>Rapport à remettre à la fin du deuxième semestre. Un exposé à faire en groupe.</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Photocopies dans un premier temps. Un dictionnaire FRANÇAIS;</p>			

02年度以前	フランス文学講読	担当者	伊藤幸次
◆講義目的、講義概要 19世紀フランスの文豪バルザックの代表作のひとつ『ゴリオ爺さん』を読みます。この小説はバルザックの連作『人間喜劇』の成立に重要な意味を持っています。また解説にはパリの地誌や19世紀フランスの社会史についての知識が欠かせません。そこで授業では単なる読解ではなく映画化された作品との比較や参考文献の検討なども行い、さらに同時代の日本、江戸へと視野を広げます。		◆授業計画 1 授業方法、評価方法の解説。作家、作品、参考資料の紹介。 2 19世紀出版事情の紹介：パリと江戸の貸し本屋、新聞・雑誌連載小説の誕生、郵便による配本と読者による製本、木を使わない製紙と活字・印刷の技術、検閲と抵抗など。 3～12 学生による発表と教員のコメント、討論。	
◆ 評価方法 授業での発表、資料持込の試験による。			
◆テキスト、参考文献 Balzac, <i>Le Père Goriot</i> , LGF 伊藤幸次著『バルザックとその時代』渡辺出版			

02年度以前	フランス文学講読	担当者	伊藤幸次
◆講義目的、講義概要 同上。		◆授業計画 1～12 学生による発表と教員によるコメント、討論。	
◆ 評価方法 同上。			
◆テキスト、参考文献 同上。			

02 年度以前	フランス文学講読	担当者	筒井 伸保
◆講義目的、講義概要 1, 2年で学んだ初級文法の知識を活用して、文学作品を読み、理解することを目的とする。今年度は19世紀の小説家プロスペール・メリメの中編小説『マテオ・ファルコーネ』を講読する。 毎回、数名の学生に訳読してもらおう。 学生は当然毎回予習をする義務がある。 履修者の制限(30~40名程度)をすることがあるので、履修しようと思う学生は、必ず1回目の授業に出席すること。 辞書は、初級者用のもの(プチ・ロワイヤル、ジュネス、ディコ)では語彙が足りないので、必ず中辞典(スタンダード、ロワイヤルなど)を利用して予習すること。中辞典は自分で持っているのが望ましいが、図書館の開架にも常備されている。		◆授業計画 1回目。授業の説明。作者メリメの紹介。 2回目以降：学生の訳読。(1回に1~2ページ程度)	
◆ 評価方法 平常点(出席・予習の程度。1年間に1度も発表しなかった学生は不可とする)および期末試験。			
◆テキスト、参考文献 Mérimée, <i>Mateo Falcone-Tamango</i> , Paris, GF Flammarion, 2000 (coll. Etonnants Classiques).			

02 年度以前	フランス文学講読	担当者	筒井 伸保
◆講義目的、講義概要 同上		◆授業計画	
◆ 評価方法 同上			
◆テキスト、参考文献 同上			

02年度以前	フランス文学講読	担当者	根本 祐徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業で Antoine de Saint-Exupéry の『南方郵便飛行』「<i>Courrier sud</i>」を講読する。『星の王子さま』の作者としてよく知られている彼は民間航空会社のパイロットであった。この作品はその体験を題材とした作品である。いつも死と向き合いながら自然の脅威と闘うパイロットの孤独が描かれているが、パイロットであるジャック・ベレニス Jacques Bernis の人妻への恋物語でもある。十分に予習をして授業に出れば、Saint-Exupéry の作品の面白さが理解できるでしょう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末の筆記試験とレポート、および授業への参加度によって行う。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Antoine de Saint-Exupéry 『南方郵便飛行』「<i>Courrier sud</i>」(駿河台出版社)</p>		<p>◆授業計画</p>	

02年度以前	フランス文学講読	担当者	根本祐徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆ 評価方法</p> <p></p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p></p>		<p>◆授業計画</p>	

02年度以前	フランス文学講読	担当者	保苅瑞穂
◆講義目的、講義概要 20世紀の作家マルセル・パニョールの「親父の栄光」を講読します。これはパニョールが自分の少年時代の思い出を語った作品ですが、今回読むのはかれの一家が南フランスの別荘で、夏のヴァカンスを過ごしたときの思い出です。中心になるのは狩の話なので、少し特殊な単語が出てきます。丹念に辞書を引いて予習をすることが必要です。南仏の気候や風土の描写を楽しみながら、フランス語の読解力をつけてください。受講生は30人程度に制限します。		◆授業計画 <div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div>	
◆ 評価方法 出席、平常点および学期末試験による			
◆テキスト、参考文献 「親父の栄光」(駿河台出版社)			

02年度以前	フランス文学講読	担当者	保苅瑞穂
◆講義目的、講義概要 同上。		◆授業計画 <div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div>	
◆ 評価方法 <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			
◆テキスト、参考文献 <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			

02年度以前	フランス文学講読	担当者	横地卓哉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>2003年秋パリで初演され、好評を博した Eric-Emmanuel Schmitt の新作戯曲 <i>Petits crimes conjugaux</i> を読みます。</p> <p>「事故」で記憶喪失に陥った夫とその妻の間で繰り広げられる言葉の応酬による物語。「事故」の謎が次第に明らかになっていきます。</p> <p>戯曲という形式に抵抗を感じる人もいるでしょうが、観客が耳にして理解できる会話で成り立っていますから、フランス語としては小説よりはるかに平易です。特にこの作品は、前衛的、実験的なものとはほど遠く、ごく普通の、娯楽をもとめ今日一般の観客のために書かれたものですから、内容の理解に苦しむことなく、楽しみながら読むことができます。</p> <p>戯曲のおもしろさを知ると同時に、現代フランス文学にふれるひとつのきっかけになればと思っています。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業への参加度、定期試験による。</p> <p>◆テキスト</p> <p>Eric-Emmanuel Schmitt, <i>Petites crimes conjugaux</i>, Albin Michel, 2003</p>		<p>◆授業計画</p> <p>上演時間にして90分、枚数で110ページほどの作品です。結末が近づくにしたがってどんどんおもしろくなっていきますから、秋学期までかけて、少なくとも一度は最後まで読み通すつもりでいます。</p> <p>そのあと時間があれば、いくつかの場面をとりあげ、実際に上演する場合どうしていけばいいのか、一緒に考えてみたいと思います。</p>	

02年度以前	フランス文学講読	担当者	横地卓哉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期参照</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>春学期に同じ</p> <p>◆テキスト</p> <p>春学期に同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春学期参照</p>	

02 年度以前	フランスの地誌	担当者	鈴木 隆
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義はフランスの地域についての実情、課題および施策を知り、それを通してフランスについての理解を深めると同時に、人間の生活もしくは諸活動の場としての地域のあり方を考えることを目的とする。</p> <p>まず、地域の概念と実体および地域分析の方法などについて説明し、さらに具体的な地域を対象として資料等を参照しながら講義を進める。</p> <p>なお、右に掲げる計画には多少の変動がありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の概念と実体 2 地域の概念と実体 3 地域の概念と実体 4 地域分析の方法 5 パリ盆地とイル・ド・フランス 6 シャンパーニュ・アルデンヌおよびピカルディ 7 オート・ノルマンディおよびバス・ノルマンディ 8 サントル 9 フランス西部 10 プルターニュ 11 ペイ・ド・ラ・ラワール 12 ポワトゥ・シャラントおよびリムザン 	
◆ 評価方法			
主に試験またはレポートによって評価し、出席状況も考慮する。			
◆テキスト、参考文献			
テキストは用いない。適宜、資料を配布する。			

02 年度以前	フランスの地誌	担当者	鈴木 隆
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義はフランスの地域についての実情、課題および施策を知り、それを通してフランスについての理解を深めると同時に、人間の生活もしくは諸活動の場としての地域のあり方を考えることを目的とする。</p> <p>まず、地域の概念と実体および地域分析の方法などについて説明し、さらに具体的な地域を対象として資料等を参照しながら講義を進める。</p> <p>なお、右に掲げる計画には多少の変動がありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 アキテーヌ 2 ミディ・ピレネ 3 ラングドック・ルシヨン 4 プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール 5 ローヌ・アルプ 6 オベルニュ 7 ブルゴーニュ 8 ノール 9 アルザスおよびロレーヌ 10 フランシュ・コンテ 11 コルシカ 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
主に試験またはレポートによって評価し、出席状況も考慮する。			
◆テキスト、参考文献			
テキストは用いない。適宜、資料を配布する。			

02年度以前	フランスの政治	担当者	井上スズ
◆講義目的、講義概要 現代フランスの政治制度の仕組みを概略説明し、その後政党と選挙の変遷、労働運動・社会運動の現状等についてもできるだけ資料に基づき述べる。全体を通じて、フランスの政治は他の議会制民主主義国とは異なる点が多いので、比較政治的観点も取り入れつつフランス政治の特色の理解に努めることとする。		◆授業計画 1. 第五共和制の成立と憲法体制 2. 大統領 3. 同上 4. 政府 5. 議会 6. 憲法院の役割変化 7. EU法と国内法 8. 選挙と政党 9. 同上 10. 労働運動の過去と現在 11. 社会運動 12. まとめ	
出席と期末のレポート			
◆テキスト、参考文献 使用せず、プリント配布			

02年度以前	フランスの政治	担当者	井上スズ
◆講義目的、講義概要 第五共和制の外交は制度上も事実においても大統領外交であるので、各大統領の個性と外交スタイルについて言及するとともに各大統領が直面した重要な外交課題がどのように取り組まれたかについて述べる。		◆授業計画 1. 大統領外交の制度上の装置 (大統領、外相、外務省の説明) 2. ドゴール外交：NATO、対米関係 3. 同上 4. 同上 5. ポンピドー外交 6. ジスカールデスタン外交：中東政策、アフリカ政策 7. 同上 8. ミッテラン外交：第三世界政策、国防政策 9. 同上 10. 再選後のミッテラン外交：ヨーロッパ問題 11. シラク外交：イラク問題 12. まとめ	
期末のレポートと出席状況			
◆テキスト、参考文献 毎回プリントを配布			

02年度以前	フランスの経済	担当者	千代浦昌道
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><u>講義目的</u></p> <p>フランス経済の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てること。</p> <p><u>講義概要</u></p> <p>フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス経済の歴史的背景を形成している、主に18世紀世紀以後20世紀前半までのフランス経済発展史について講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方、テキスト・参考文献などについての説明、最近のフランスの政治経済情勢 2 経済発展と工業化についての基礎知識 3 フランス産業革命の特異性 4 フランス産業革命前史1（旧体制下の経済と社会） 5 フランス産業革命前史2（フランス大革命とナポレオンI世の時代） 6 フランスの農業と産業革命 7 人口増加の停滞とフランスの工業化 8 フランスの天然資源問題と工業化 9 フランスの保護主義とその工業化への影響 10 フランスの植民地経営と工業化 11 フランス金融機関の特質と工業化 12 フランス工業化の社会的諸条件 	
◆ 評価方法			
期末試験と出席点による。			
◆テキスト、参考文献			
統計資料などを随時配布する。			

02年度以前	フランスの経済	担当者	千代浦昌道
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><u>講義目的</u></p> <p>フランス経済の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てること。</p> <p><u>講義概要</u></p> <p>第二次世界大戦後のフランス経済の成長と変遷を、主に経済計画と企業国有化・民営化の流れに沿って説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 フランス語経済専門用語の基礎知識、フランス経済の基礎データの説明 2 戦後フランスの経済（基礎経済統計） 3 戦後フランスの政治と経済の概観1 4 戦後フランスの政治と経済の概観2 5 フランスの第1次国有化 6 フランスの経済計画 7 ドゴールとボンピドゥーの経済と経済政策 8 ジスカールデスタンとバール・ブランの時代 9 ミッテラン時代の経済と経済政策1（第2次国有化と社会主義政策） 10 ミッテラン時代の経済と経済政策2（コアビタシオンと民営化の時代） 11 ミッテラン時代の経済と経済政策3（欧州連合と通貨統合へ向けて） 12 シラク大統領時代の経済と経済政策 	
◆ 評価方法			
期末試験と出席点による。			
◆テキスト、参考文献			
渡邊啓貴「フランス現代史」、中公新書、1998			

02 年度以前	フランス文化・社会各論	担当者	井上たか子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>シモーヌ・ド・ボーヴォワールの生きた 20 世紀 今年のテーマは「シモーヌ・ド・ボーヴォワール」です。 ボーヴォワール(1908・86)の生きた 20 世紀がどんな時代であったのか、彼女はそこにどのようにコミットしたのかを、彼女自身の作品や証言、ビデオなどをとおして学びます。 前期は、彼女の思想のバックボーンでもある実存主義の哲学や当時の女性教育制度、また第二次世界大戦、アルジェリア戦争など、時代背景を中心に学びます。 後期は『第二の性』(1949)や第二波フェミニズム(1970 年代)などが、20 世紀の女性の状況の変化にどんな影響を与えたのか、そして現状はどうかについて学びます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業は履修者の発表や討論も加えて進みますので、出席を重視します。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>ビデオ 朝吹 『自身を語る』 サルトル 『ショア』 女性解放運動 (NHK) +フミコを探して</p>		<p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>女性教育制度 cf. モイ 『わが姉ボーヴォワール』 マルセル・マリーニ (『女の歴史』20 世紀、10「文化の生産における女性の位置」、p.500</p> <p>サルトル 実存主義／ビデオ (朝吹) 非婚カップル 第二次大戦 レジスタンス『他人の血』 クロード・ランズマン『ショア』／ビデオ 『第二の性』 内田樹『女は何を欲望するか?』p.39ー アルジェリア戦争 ジャミラ・ブバー シャ／ジゼル・アリミ ベトナム ラッセル法廷 第二波フェミニズム／ビデオ 『晩年のボーヴォワール』</p> <p>回想録 パリ／ビデオ (中村) 日常の性差別：教科書批判 アソシアシオン／Cause du people</p>	

02 年度以前	フランス文化・社会各論	担当者	井上たか子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>今日フランス外交についての最大の関心事はイラク戦争を契機とする米欧対立の問題であるといえよう。この問題については、多くの国際政治の専門家やジャーナリストがさまざまな議論を展開している。それらのうちなるべく解りやすい論説を選んで講読のテキストとする。</p> <p>出席状況と試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント</p>		<p>◆授業計画</p>	

02 年度以前 フランス文化・社会講読		担当者	PH. ヴァネ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>But du cours : Pouvoir lire et comprendre des textes à contenu politique, sociologique ou économique.</p> <p>Contenu : Au début, lecture d'articles destinés aux collégiens et lycéens sur des sujets d'actualité ayant rapport à la France et aux relations internationales (Europe, francophonie, ONG, etc.). Plus tard, les articles seront tirés des journaux habituels.</p> <p>Méthode : Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte.</p>		<p>1 Articles tirés de journaux pour enfants.</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6 Petit test de vocabulaire</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>Examen semestriel</p>	
◆ 評価方法			
Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes			
◆テキスト、参考文献			
Photocopies			

02 年度以前フランス文化・社会講読		担当者	PH. ヴァネ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Voir le premier semestre.</p>		<p>1 Articles tirés de journaux pour lycéens.</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6 Petit test de vocabulaire (facultatif)</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10 Articles tirés du <i>Monde</i></p> <p>11</p> <p>12</p> <p>Examen semestriel</p>	
◆ 評価方法			
Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes			
◆テキスト、参考文献			
Photocopies			

02 年度以前	フランス文化・社会講読	担当者	井上スズ
◆講義目的、講義概要 今日フランス外交についての最大の関心事は、イラク戦争を契機とする米欧対立の問題であるといえよう。この問題については米英の専門家も興味深い議論を次々と展開している。とりあえず内容の面でもわかりやすいイギリスの歴史家ポスポームの見解を読むことから始めたい。歴史学と国際関係論の出会いともいうべきユニークな「帝国」論が論じられている。		◆授業計画	
出席状況と試験			
◆テキスト、参考文献 プリント			

02 年度以前	フランス文化・社会講読	担当者	井上スズ
◆講義目的、講義概要 今日フランス外交についての最大の関心事はイラク戦争を契機とする米欧対立の問題であるといえよう。この問題については、多くの国際政治の専門家やジャーナリストがさまざまな議論を展開している。それらのうちなるべく解りやすい論説を選んで講読のテキストとする。		◆授業計画	
出席状況と試験			
◆テキスト、参考文献 プリント			

02 年度以前	フランス文化・社会講読	担当者	江花輝昭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>パソコンを用いて、「話す」以外の「読む」、「聞く」、「書く」フランス語運用能力を総合的に向上させることを目標とします。</p> <p>インターネット上のホームページの記事等を加工して使い、毎回全員に読解や音声聞き取り、本文中に出てきた表現を応用した作文練習等の作業をこなしてもらいます。最後にこちらで作成したオンライン問題で作業のこなし具合をチェックします。また、記事に関連する和文仏訳等の課題もやってもらう予定です。</p> <p>レベル的には中級以上を想定しています。全員に同じ作業をしてもらいますので、教室内でぼんやりしていることは不可能です。詳しくは第1回目の授業で説明します。</p>			
◆ 評価方法			
オンライン・チェック問題の成績と提出課題評価による平常点。			
◆テキスト、参考文献			
なし			

02 年度以前	フランス文化・社会講読	担当者	江花輝昭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>パソコンを用いて、「話す」以外の「読む」、「聞く」、「書く」フランス語運用能力を総合的に向上させることを目標とします。</p> <p>インターネット上のホームページの記事等を加工して使い、毎回全員に読解や音声聞き取り、本文中に出てきた表現を応用した作文練習等の作業をこなしてもらいます。最後にこちらで作成したオンライン問題で作業のこなし具合をチェックします。また、記事に関連する和文仏訳等の課題もやってもらう予定です。</p> <p>レベル的には中級以上を想定しています。全員に同じ作業をしてもらいますので、教室内でぼんやりしていることは不可能です。</p>			
◆ 評価方法			
オンライン・チェック問題の成績と提出課題評価による平常点。			
◆テキスト、参考文献			
なし			

02 年度以前	フランス文化・社会講読	担当者	鈴木 隆
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義はフランスにおける環境に関する文献の講読を中心として講義を行うことにより、フランスの文化と社会についての理解を深め、且つ高度なフランス語の習得を図ることを目的とする。</p> <p>講義では、フランスの都市および農村における環境に関する文献の講読とそれを補足する講義を通して、現代フランスの環境をめぐる状況および政策について学ぶ。受講生は、予め割り当てられた文献の講読と発表を行う。</p> <p>右に掲げる授業計画には多少の変動がありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 都市環境をめぐる現状、問題および展望 2 都市環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 3 都市環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 4 都市環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 5 都市環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 6 都市環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 7 都市環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 8 都市環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 9 廃棄物をめぐる現状、問題および展望 (続) 10 廃棄物をめぐる現状、問題および展望 (続) 11 廃棄物をめぐる現状、問題および展望 (続) 12 廃棄物をめぐる現状、問題および展望 (続) 	
◆ 評価方法			
主として試験に結果によるが、授業中の発表も考慮する。			
◆テキスト、参考文献			
テキストは授業中に適宜、配布する。			

02 年度以前	フランス文化・社会講読	担当者	鈴木 隆
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義はフランスにおける環境に関する文献の講読を中心として講義を行うことにより、フランスの文化と社会についての理解を深め、且つ高度なフランス語の習得を図ることを目的とする。</p> <p>講義では、フランスの都市および農村における環境に関する文献の講読とそれを補足する講義を通して、現代フランスの環境をめぐる状況および政策について学ぶ。受講生は、予め割り当てられた文献の講読と発表を行う。</p> <p>右に掲げる授業計画には多少の変動がありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 12 廃棄物をめぐる現状、問題および展望 (続) 13 廃棄物をめぐる現状、問題および展望 (続) 14 廃棄物をめぐる現状、問題および展望 (続) 15 廃棄物をめぐる現状、問題および展望 (続) 16 廃棄物をめぐる現状、問題および展望 (続) 17 農業と環境をめぐる現状、問題および展望 18 農業と環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 19 農業と環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 20 農業と環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 21 農業と環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 22 農業と環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 23 農業と環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 24 農業と環境をめぐる現状、問題および展望 (続) 	
◆ 評価方法			
同上			
◆テキスト、参考文献			
同上			

02 年度以前	フランス文化・社会講読	担当者	藤田朋久
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的： * フランス語の読解力を高める。 * フランス中世社会史入門</p> <p>講義概要： 昨年引き続き、中世の騎士や騎士文化に関する文献を読みます。テーマとしては、馬や武具、また狩猟などを取り上げる予定です。</p> <p>参考文献：J. フロリ著「中世フランスの騎士」（文庫クセジュ）。その他の文献は教室で指示する。</p>			
◆ 評価方法			
レポート（年2回）。その他、平常点など。			
◆テキスト、参考文献			
プリント配布。			

02 年度以前	フランス文化・社会講読	担当者	藤田朋久
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
同上		同上	
◆ 評価方法			
同上			
◆テキスト、参考文献			
同上			

02年以前 フランス文化・社会講読		担当者	前川久美子
◆講義目的、講義概要 美術作品について書いたフランス語のテキストを読みます。 文法事項を復習しながら、たんねんに辞書を引き、文章の構造を把握したうえで、訳文を書いて授業にのぞんでください。 第一回目に聴講者を決定したいので必ず出席して、許可をとったうえで登録してください。(聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならない可能性もあります。)		◆授業計画 1 イントロダクション 2~12 訳読など	
◆ 評価方法 テスト(訳文を暗記するだけで得点できるテストにする予定はありません)と平常点による。			
◆テキスト、参考文献 プリントを配ります。			

02年以前 フランス文化・社会講読		担当者	前川久美子
◆講義目的、講義概要 同上		◆授業計画 1~12 訳読など	
◆ 評価方法 同上			
◆テキスト、参考文献 同上			

02 年度以前 フランス文化・社会講読	担当者	若森栄樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講座ではフロイトの「性理論に関する3つの論文 <i>trois traités sur la théorie sexuelle</i>」を読みます。この論文はフロイトがセックスに関するさまざまな現象を精神分析の立場から解明しようとしたもので、出版当時は「不道德」「退廃的」という非難を浴びました。原文はドイツ語ですが、優れたフランス語訳があるので、それを使用します。</p> <p>深い内容のあるフランス語のテキストを読み解けるようになることがこの授業の目的です。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>春学期の終わりに提出するレポートおよび平常点</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント配布。 参考文献は授業の際指示します。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>最初の授業の際指示します。</p>	

02 年度以前 フランス文化・社会講読	担当者	若森栄樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講座ではフロイトの「性理論に関する3つの論文 <i>trois traités sur la théorie sexuelle</i>」を読みます。この論文はフロイトがセックスに関するさまざまな現象を精神分析の立場から解明しようとしたもので、出版当時は「不道德」「退廃的」という非難を浴びました。原文はドイツ語ですが、優れたフランス語訳があるので、それを使用します。</p> <p>深い内容のあるフランス語のテキストを読み解けるようになることがこの授業の目的です。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>秋学期の終わりに提出するレポートおよび平常点</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント配布。 参考文献は授業の際指示します。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>最初の授業の際指示します。</p>	

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	金谷 優子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英語の文章(長文)を読んで、容易に内容を理解できるようになるためには</p> <p>1：母国語に翻訳せずに英語として理解すること。</p> <p>2：英語の文章、特に各パラグラフの中で鍵となるべき文章、言葉を素早く見つけ出すこと。</p> <p>3：ある程度の語彙力を身につけること。ことが必要である。</p> <p>この授業では、上掲の3項目を意識しながら英字新聞の読解演習を行い、受講者の英文読解力の養成を図るとともに、各々の新聞記事に取り上げられている様々な問題について、ともに考察してみよう。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>1: Introduction: About paragraph and topic sentence</p> <p>2: In Asia, the English</p> <p>3: Manga mania goes global</p> <p>4: An Order of fried, please, but do hold the French</p> <p>5: The Euro did it!</p> <p>6: The doctor's little helper</p> <p>7: Despite slumping economy, Porsche posts record profit</p> <p>8: Sars</p> <p>9: Turning into Japan's everyman in a Nobel way</p> <p>10: 'Spirited Away' presages golden age of anime</p> <p>11: The Luck of George</p>		
<p>◆ 評価方法</p> <p>平常点、前後期末のテスト、レポート等を総合評価</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>English through the News Media -2004 Edition-</i> 上杉明 編著 (朝日出版社)</p>			

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	金谷 優子
<p>◆講義目的、講義概要</p>	<p>◆授業計画</p> <p>1: Abduction news recalls eerie memories for witnesses</p> <p>2: 'Sappu' phenomenon</p> <p>3: Peace pins and antiwar speeches at Oscar Show</p> <p>4: Kawaii sea lion back in spotlight</p> <p>5: Japan men decry lack of home-grown heroes</p> <p>6: Godzilla conquers New York in debut</p> <p>7: 5 Japanese, kidnapped long ago, visit home</p> <p>8: Russia's elitist manifesto</p> <p>9: Sex cells</p> <p>10: A World of hurt</p> <p>11: Two overweight Girls sue McDonald'</p> <p>12: Review</p>		
<p>◆ 評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	佐藤 倫之
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>多読と精読の両方を目指すクラス。 受講者は毎週一定量の英文読解の課題が与えられる。翌週、その英文についてのクイズを授業開始冒頭に行う。クイズ終了後、その英文についての解説を行う。クイズ開始の前後を問わず、英文についての質問は随時受け付ける。</p> <p>評価方法 毎回のクイズは10点満点。この点数を1年間積み重ね、満点を100%として百分率換算をして、100点満点に対する点数とする。学期末・学年末の大きなテストは行わない。毎回の点数のみを評価対象とする。100点満点に換算した後は、講義概要にある評価基準に従う。</p> <p>欠席について 欠席の回数は問わない。ただし、欠席した日のクイズの得点は0点とする。総分母より欠席分を減算することもしない。（クイズが年間20回ならば、20回x10点=200点満点が総分母となり、欠席数に関わらず、どの受講者にもこの総分母が適用される。）</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>上記参照</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントを配布</p>		<p>◆授業計画</p> <p>初回到第1回目の課題を配布し、その他の細かい注意を説明する。初回以降は左欄に書いたとおり。</p> <p>取り上げる英文について 左欄では一定量としたが、授業開始間もないころはA4用紙1枚程度を目安とする。受講者の慣れを見ながら、徐々に分量を増やしていく。内容によっては、相当量のことを数回に分けて取り上げることもある。</p> <p>取り上げるトピックは現在の社会状況・国際状況に即したものを取り上げる。受講者の興味・要望に応じて、さまざまなものを取り上げる予定。要望は随時受け付ける。</p>	

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	佐藤 倫之
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	佐野 裕美子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語は異文化間コミュニケーションのための手段であり、有効な異文化間コミュニケーションのためには、まず自国文化を客観的な目で見つめ、理解し、説明できるようにならなければならない。</p> <p>この授業では、日本で起きている社会現象について書かれているテキストを読み進め、同時に、自己の意見をまとめ、聞き手に対し効果的に表現する能力を身につけることを目標とする。また、他国文化についてのリサーチ、グループプレゼンテーションも行ってもらおう。</p> <p>授業にはグループワークを多く取り入れる。テストは行わないが、その分積極的な授業参加、努力を評価する。年間6回以上の欠席はみとめない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction(講義概要説明) 2. Japanese Cuisine Goes International 3. Japanese Cuisine : group work (HW: writing) 4. The <i>Chapatsu</i> Syndrome 5. The <i>Chapatu</i> : group work (HW: writing) 6. Gambling- Japanese Style 7. Gambling : group work (HW: writing) 8. Project preparation 9. The <i>Manga</i> Artist 10. The <i>Manga</i>: group work (HW: writing) 11. Review (映画鑑賞) 12. Group project presentation 	
◆ 評価方法			
<p>授業参加（出席, homework, presentation）60% Course Portfolio 30% 自己評価 10%</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>巽孝之編注『Alternative Culture in Japan』 成美堂（¥1600）</p>			

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	佐野 裕美子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>前期と同様だが、前期の様子をみてアレンジする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: project meeting 2. My Car, My Castle 3. My Car, My Castle: group work (HW: writing) 4. Fortune-Telling in Japan 5. Fortune-Telling: group work (HW: writing) 6. <i>Ketueki-gata</i> 7. TV Dating 8. TV Dating : group work (HW: writing) 9. Project preparation 10. The Japanese Wedding Industry 11. The Wedding: group work (HW: writing) 12. Group project presentation 	
◆ 評価方法			
<p>授業参加（出席, homework, presentation）60% Course Portfolio 30% 自己評価 10%</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>巽孝之編注『Alternative Culture in Japan』 成美堂（¥1600）</p>			

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	高松 節子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英語でいう anecdote とは humor の一分野です。つまり特定の個人に結びついたジョークやヒューモラスな表現が anecdote ということになります。したがって、本テキスト中の話も、「この人にしてこの言あり」というところを味読していきたいと思います。</p> <p>プリンセス・ダイアナがオーストラリアを訪問したときのこと、ジョン・F・ケネディが初めて政界に入るときのキャンペーンの中味、自分の絵が競売で高値で売れたときのドガの気持ち、ハリウッドを訪れたアインシュタインにチャップリンが言った言葉——など、興味津々の選りすぐられた逸話を読んでいきます。</p> <p>大切なことの一つに、英語の本をきちんと読むための、毎時間の修業の積み重ねがあるでしょう。文化としての言葉、つまり言葉そのものが文化であるということ。言葉以外の文化と言葉のかわり。そういうことを考えていきたい。特に英語の笑いの表現について学んでいきます。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Charles A. Lindbergh, Sir Alfred Hitchcock... 2 Maurice Chevalier, Yoshida (吉田茂) ... 3 George Harrison, Dr. Johnson... 4 Prince Albert, George Bernard Show... 5 Xerxes, Betty Grable... 6 Themistocles, Bing Crosby... 7 Dame Nellie Melba, Salvador Dali... 8 Sir Walter Raleigh, Benny Goodman... 9 "Babe" Ruth, Henrik Ibsen... 10 Harry Weiss Houdini, Moshe Dayan... 11 George Burns, Orville and Wilbur Wright... 12 試験 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>評価は出席、平常点すなわち授業における発表など、と試験を総合したものが対象となります。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>郡司利男・高松節子 編注 200Anecdotes『笑う逸話 200』開文社 2003年</p>			

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	高松 節子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英語でいう anecdote とは humor の一分野です。つまり特定の個人に結びついたジョークやヒューモラスな表現が anecdote ということになります。したがって、本テキスト中の話も、「この人にしてこの言あり」というところを味読していきたいと思います。</p> <p>プリンセス・ダイアナがオーストラリアを訪問したときのこと、ジョン・F・ケネディが初めて政界に入るときのキャンペーンの中味、自分の絵が競売で高値で売れたときのドガの気持ち、ハリウッドを訪れたアインシュタインにチャップリンが言った言葉——など、興味津々の選りすぐられた逸話を読んでいきます。</p> <p>大切なことの一つに、英語の本をきちんと読むための、毎時間の修業の積み重ねがあるでしょう。文化としての言葉、つまり言葉そのものが文化であるということ。言葉以外の文化と言葉のかわり。そういうことを考えていきたい。特に英語の笑いの表現について学んでいきます。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Neil Armstrong, The Queen Mother... 2 Charles Darwin, Ogden Nash... 3 Pablo Picasso, Noah Webster... 4 James Cook "Captain Cook" Calvin Coolidge... 5 Mark Twain, Napoleon I... 6 Abraham Lincoln, Sir Winston Churchill... 7 John Hancock, 4th Duke of Queensberry... 8 Jean Gabin, William Randolph Hearst... 9 George VI, Sir J. M. Barrie... 10 Thomas Edison, O. Henry... 11 Franz Joseph Haydn, Somerset Maugham... 12 試験 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>評価は出席、平常点すなわち授業における発表など、と試験を総合したものが対象となります。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>郡司利男・高松節子 編注 200Anecdotes『笑う逸話 200』開文社 2003年</p>			

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	E. ハードスターク
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The class will start with simple writing assignments and will also include the study of sentence structure as well as grammar. The goal is for the students to be able to express their thoughts and opinions with as much clarity and structure as possible. As the class progresses an introduction to various kinds of writing will be introduced, such as paragraphs, news articles and book reviews. There will class assignments as well as homework papers. some of the themes we will be writing about are "Japanese tourists," "the likes and dislikes of school life," "people that you admire," it should be an enjoyable class but does require active participation.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>attendedance: 30% class participation 30% writing assignments 40%</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>there will be a textbook that will be assigned after the first week of class.</p>		<p>◆授業計画</p>	

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	E. ハードスターク
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	石月 正伸
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>[講義目的] 本講義では、英語の基礎力がやや不足気味の学生を主な対象として、(1)基礎的文法の復習を兼ねるテキストを用いて、英文を英語の構造で書く、即ち、文法的に間違いのない英文を書く練習と、(2)「パラグラフ・ライティング」のノウハウを視野に入れながら、レポート作成を通して、ある意味内容を理路整然と書く練習をする。</p> <p>[講義概要] テキストに関しては、原則的に授業2回でcontentsの1つを終えるように進めてゆきます。また、レポートは、授業3回に2度くらいの頻度で提出が要求されます。練習なので、レポートの内容によって、成績が左右されることは原則的にありません。つまり、上手に書けるように努力することが要求されているだけです。 定期試験は行いません。だが、授業時に簡単な小テストが2回あります。 *詳しくは、ガイダンスで述べます。受講希望者は、なるべくガイダンスに出てください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>2回の小テスト+レポート+授業時の発表点</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Let's Write!</i> by Hiroyuki Tomi (Asahi Press)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>テキストの予定のみ記します</p> <p>*テキストは、大学の教科書としては、非常に基礎的なレベルのものです。英語の文法が少しあやふやな学生に適したものと考えてください。</p> <p>[テキストの予定内容]</p> <p>1 ガイダンス</p> <p>2・3 5つの基本文型を中心とした問題</p> <p>4・5 進行形</p> <p>6・7 助動詞</p> <p>8・9 受動態</p> <p>10・11 比較</p> <p>12・13 完了時制</p>	

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	石月 正伸
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期に続く。授業形態は同じ。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>2回の小テスト+レポート+授業時の発表点</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Let's Write!</i> by Hiroyuki Tomi (Asahi Press)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>[テキストの内容]</p> <p>1・2 不定詞</p> <p>3・4 現在分詞と過去分詞</p> <p>5・6 動名詞</p> <p>7・8 関係代名詞</p> <p>9・10 関係副詞</p> <p>11・12 接続詞</p>	

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	佐野 裕美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業では、英文エッセイの構成を学びつつ、自己の意見をまとめ、読み手に対し効果的に表現する能力を身につけることを目標とする。年間を通じ実際に英文を書く機会を多く設け、グループワークの採用により、よりわかりやすく洗練された文に仕上げていく過程を学習する。また writing と同様に、productive なスキルである speaking の機会も設け、総合的に「自己表現」のスキルアップを図る。</p> <p>テストは行わないが、その分積極的な授業参加、努力を評価する。ほぼ毎回、作文の宿題を出す予定。年間6回以上の欠席はみとめない。</p> <p>「大変だが楽しい」「力のつく」授業を目指している。「書くこと」と「人とのコミュニケーション」を積極的に楽しめる学生であれば、現在のレベルは問題ではない。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業参加（出席, homework, presentation）60% Course Portfolio 30% 自己評価 10%</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>石谷由美子・Emma Andrews 著 『Skills for Better Writing』南雲堂（¥1800）</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction(講義概要説明) 2. Description: personal topic 3. Description: personal topic 4. Conclusions/ Reasons 5. Conclusions/ Reasons 6. Analysis 7. Analysis 8. Theory/ Proof 9. Theory/ Proof 10. Controversy 11. Controversy 12. Presentation 		

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	佐野 裕美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>基本的な授業の進め方は前期と同様だが、前期の様子をみてアレンジする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業参加（出席, homework, presentation）60% Course Portfolio 30% 自己評価 10%</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>石谷由美子・Emma Andrews 著 『Skills for Better Writing』南雲堂（¥1800）</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: group project meeting 2. Comparison/ Contrast 3. Classification 4. Instructions 5. Cause & Effect 6. Explanation (Statistics) 7. Explanation (New Product) 8. Explanation (New Product) 9. Group presentation 10. Definition 11. Description 12. Presentation 		

	英語（基礎会話Ⅲ）	担当者	L. Kハーキンス
◆講義目的、講義概要 第一回目の授業で指示する。		◆授業計画 第一回目の授業で指示する。	
◆ 評価方法 第一回目の授業で指示する。			
◆テキスト、参考文献 第一回目の授業で指示する。			

	英語（基礎会話Ⅲ）	担当者	L. Kハーキンス
◆講義目的、講義概要 第一回目の授業で指示する。		◆授業計画 第一回目の授業で指示する。	
◆ 評価方法 第一回目の授業で指示する。			
◆テキスト、参考文献 第一回目の授業で指示する。			

英語（上級読解Ⅲ）	担当者	J. ウォールドマン
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will provide students practice in a variety of reading tasks such as information gathering, problem-solving tasks and critical thinking. The class exercises will help students to become independent and active readers.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Students will be graded on attendance, class participation, homework and tests</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Beyond True Stories</i>. Sandra Heyer. Longman</p>	<p>◆授業計画</p> <p>Weeks 1-3 Classes will focus on introductions, explanations of the class, teacher's expectations of students and the first unit of the main textbook.</p> <p>Weeks 4-6 Classes will involve expanding vocabulary, learning to guess unfamiliar meanings from context and sentence study exercises.</p> <p>Weeks 7-9 A variety of other reading material will be used along with the main text of the class. Also included will be identifying main ideas, making inferences and responding to the readings.</p> <p>Weeks 10-12 Classes will comprise building academic vocabulary, understanding slang expressions and a final examination.</p>	

英語（上級読解Ⅲ）	担当者	J. ウォールドマン
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will provide students practice in a variety of reading tasks such as information gathering, problem-solving tasks and critical thinking. The class exercises will help students to become independent and active readers.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Students will be graded on attendance, class participation, homework and tests</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Beyond True Stories</i>. Sandra Heyer. Longman</p>	<p>◆授業計画</p> <p>Weeks 13-15 Classes will focus on paraphrasing main ideas, separating fact from opinion and reading a bar graph.</p> <p>Weeks 16-18 Classes will focus on not only the textbook but also additional readings for comparison and variety of writing styles.</p> <p>Weeks 19-21 Understanding cause and effect and identifying main ideas will be the highlight of these next three classes. Cause and effect patterns will be analyzed for effectiveness.</p> <p>Weeks 22-24 The last three classes of the semester will focus on a review of learned material, including vocabulary, and a final examination.</p>	

	英語（上級作文Ⅲ）	担当者	保坂 華子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>国際化社会にあって世界の動きを理解し、自分の考えを表現するには、英語で問題を捉え、自分のことばで正確に考えを伝えることも重要なスキルとなります。</p> <p>このクラスでは、英語で提示された問題(issue)に関して、①まず「読んで理解」し、②自分の「考えをまとめ」、③その問題について「クラスで理解を深め」、④「考えを整理」し、⑤「自分のことばで表現する」「論じる」、という過程をつんでいきます。</p> <p>語学の習得には「授業の参加者の積極性」が必要不可欠です。必ず予習や課題をし、辞書を持参してください。授業では順番に当てていきます。作文のクラスですから、どんどん書いていきましょう。進度を見ながら随時テキスト以外の教材も取り入れ、1-2回に1章程度を予定しています。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況(2/3以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」—やる気と努力を重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>McMahon, R. <i>Presenting Different Opinions</i>. 南雲堂 リーダーズ英和辞典 など、各自辞書を用意のこと。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>1 授業方法、注意事項、テキストの説明他 2 Basic skills in paragraph writing 3 以降 基本的に Unit 1 から順に進みます。 (1-2回に1章程度を予定) 学期末にかけて、期末の課題に取り組みます。 (また、夏休みのプロジェクトを予定しています。)</p>		

	英語（上級作文Ⅲ）	担当者	保坂 華子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期の続きで、さらに「自分のことばで表現する」力、「理解する」力をつけましょう。 英語で「書く」、「自分のことばで論ずる」練習をしていきます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況(2/3以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」—やる気と努力を重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト他、各自辞書を用意。例:『リーダーズ英和辞典』、<i>Collins COBUILD English Language Dictionary</i></p>	<p>◆授業計画</p> <p>1 復習など 夏休みのプロジェクトの発表会（前半に実施） 2 以降 基本的に前期の続きから順に進みます。 (1-2回に1章程度を予定) 学期末にかけて、期末の大きな課題に取り組みます。 最終回 まとめ</p>		

	英語（上級会話Ⅲ）	担当者	P. ドーレ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Hi there. If you like meeting with lots of different people, sharing your opinions and talking about your experiences, then you might enjoy this class. The focus of this class is to help you build up your skills of conversation and language learning through frequent discussion with your classmates. In every class we will do pair work and group work, so you can get to know all of your classmates quite well. One of your main tasks in this class will be to record and review your conversations regularly. A couple of topics you can expect to express your opinions about and exercise your imagination on are 'job preferences' and 'folk stories'. As well as discussing these topics with each other we will also meet with other classes for discussions, when possible. It will be a fun, but challenging class. I look forward to getting to know you all and having a fun and challenging year together. *Please note: Class content is subject to change.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Class introduction question and answer time. 2. Getting to know each other. Discussion topic: Personal background 3. Small talk and conversation starters. 4. Conversation fillers and conversation extending questions. Discussion topic: Life stages 5. Meeting and introducing other people. Conversation strategies review. 6. Conversation topic #2 recorded discussions. 7. Introduction to 'Folk Stories' and their characteristics. How to tell stories and story selection. 8. Story reading and retelling 9. Story telling task preparation. 10. Story telling task. 11. Semester review, test preparation and summer project introduction. <p>*Please note: Class content is subject to change.</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>Exam, Journal, recorded conversation.</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>To be announced in April.</p>			

	英語（上級会話Ⅲ）	担当者	P. ドーレ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>If meeting and talking with all those people in the 1st half of the year made you happy, then keep smiling, because we will do even more this semester. However, if you found last semester challenging and think that you didn't get as much benefit as possible, then here is another chance. In this semester we are going to keep meeting people, having conversations, using our imaginations, and sharing our ideas and experiences with our classmates and other people. The focus is to improve upon skills learned in the 1st semester and continue recording and reviewing your conversations. Again, Mondays will be filled with the anticipation of what today's discussions will reveal. You may find yourself asking "<i>What interesting opinions will I hear today?</i>", or thinking "<i>I wasn't nervous today. Hooray!</i>" or even feeling "<i>Oh no! There's only 12 weeks of class left. I miss these people already!</i>" Be careful.....it could happen to you.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Class introduction, Q & A time and catching up on the each others Summer holidays. 2. Review of semester #1 and introduction of career goals topic. 3. Recorded discussion about career plans and preferences. 4. Cultural and societal differences in communication. 5. Recorded discussion about cultural differences. 6. Music and it's influence. Discussions about various genres of music and our preferences. 7. Preparation for recorded discussion task # 1 8. Recorded discussion task # 1 9. All about foreign travel, including currencies, culture etc. Conversation strategy: persuasive discussion. 10. Recorded discussion task # 2. 11. Review of semester content and test preparation. <p>*Please note: Class content is subject to change.</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>Exam, Journal, recorded conversation.</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>To be announced in April.</p>			

英語（上級会話Ⅲ）	担当者	R. M. ペイン
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course is intended for third and fourth year students majoring in French or German. It is designed to:</p> <ul style="list-style-type: none"> * help students improve their ability to communicate in spoken English; * introduce students to the culture of American English. <p>We will begin the course with chapter 1 of the text and then students will decide which chapters to cover. One exception is chapter 4 which we will save for November and the Thanksgiving season.</p> <p>Grades in this class will be based on attendance and participation. Three unexcused absences in one semester will result in a failing grade. (Fourth year students who will have to miss occasional classes for job-hunting will be expected to provide documentation of the reason for their absence and to make-up work. Details about this work will be provided during the first class.)</p> <p>◆評価方法</p> <p>grades will be based on attendance and participation</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><u>Everyday Situations for Communicating in English</u></p>	<p>◆授業計画</p>	

英語（上級会話Ⅲ）	担当者	R. M. ペイン
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(same as first semester)</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

◆講義目的、講義概要

Purpose of the class: Class Summary:

This class will help students to think, use, and speak with Modern, everyday English. "Wasei Eigo" will not be used; instead, we will learn and discuss topics and culture. We will learn to explain and elaborate.

In addition, listening skills and vocabulary can be improved, by listening to English song exercises, and to some videos.

This class will focus on 'ACTIVE ENGLISH'!

◆評価方法 Evaluation: Your grade will depend on YOUR attendance; on YOUR class participation; and on YOUR quiz & exam results and any presentation results.

◆テキスト、参考文献

After assessing student needs & desires, the instructor may decide to select a textbook.

◆授業計画 Course Plan; (tentative)

- Week 1: Introductions; song exercise.
- Week 2: Review of Intros; practice; song exercise; "How's it going?"
- Week 3: Review & practice: "How's it going?" +/- video exercise.
- Week 4: "What are your hobbies?"; practice. Song exercise.
- Week 5: "How was your _____?"; practice. Review of hobbies.
- Week 6: "going to": the Future. Practice. Song exercise.
- Week 7: Review & practice of the Future. Song/video exercise.
- Week 8: "What do you usually do...?" with explanation & elaboration.
- Week 9: Review of "What do you usually do...?"; song/video exercise.
- Week 10: tentatively: Street Directions. Song/video exercise.
- Week 11: Review: street directions. Song/video exercise.
- Week 12: Review for examination; song/video exercise.
- Week 13: Review; examination.

◆講義目的、講義概要

This class will continue to help you to think & reply in Modern English.

Listening abilities can be enhanced by song and/or video exercises.

"Wasei Eigo" will not be used.

Videos and/or songs may be used to help improve listening-comprehension skills.

The focus of this class: 'ACTIVE ENGLISH'!

◆評価方法 Your grade depends on YOUR class participation; on YOUR attendance; and on YOUR scores on quizzes, presentations and or exams.

◆テキスト、参考文献

A textbook may be selected, depending on student needs.

◆授業計画

- Week 1: "How was your Summer?" Pair practice. Song/video exercise.
- Week 2: "How often do you...?" practice. Song/video.
- Week 3: Review of "How often...?"; song/video.
- Week 4: Halloween: let's learn about the history & customs of Halloween. Halloween video.
- Week 5: Halloween video continued.
- Week 6: "Would" vs. "Will"; practice.
- Week 7: "_____ is a time when festivals & events in Japan and in other countries." : talking about festivals & events in Japan and in other countries.
- Week 8: "What do you think of...?" ; giving your opinions.
- Week 9: Song/video exercise. Preparing for Christmas presentations.
- Week 10: Polite vs. not-so-polite questions. Song/video.
- Week 11: Christmas presentations. Polite Qs reviewed.
- Week 12: Christmas presentations; Christmas songs.
- Week 13: Review for examination.

	英語 (CAEL)	担当者	安井 美代子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて、2ないし3レベルに分け、それぞれのレベルの応じて、週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み 12:30-13:00 に指定の教室に集まり、レベル毎の単語テストを受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。単語テストの範囲は「講義支援システム」上でテスト前の日曜日までに公開する。</p> <p>受講対象は全学部2-4年生。3レベルに分ける場合、TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は火曜日5限、水曜日3限、木曜日5限中央棟606にて対応する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回単語テスト 4 第2回単語テスト 5 第3回単語テスト 6 第4回単語テスト 7 第5回単語テスト 8 第6回単語テスト 9 第7回単語テスト 10 第8回単語テスト 11 第9回単語テスト 12 第10回単語テスト 	
<p>◆評価方法</p> <p>指定教材の学習修了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の単語テストおよび定期試験による。上位のレベルほどAの割合を多くする。定期試験は、スタンダードコースのリーディング教材に準拠した問題50%、その他の問題50%を予定。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>なし</p>			

	英語 (CAEL)	担当者	安井 美代子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期と同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導 2 第11回単語テスト 3 第12回単語テスト 4 第13回単語テスト 5 第14回単語テスト 6 第15回単語テスト 7 第16回単語テスト 8 第17回単語テスト 9 第18回単語テスト 10 第19回単語テスト 11 第20回単語テスト 12 学習指導 	
<p>◆評価方法</p> <p>春学期と同じ</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>なし</p>			

2004年度

外国語学部共通科目シラバス

獨協大学

外国語学部共通科目 2003年度以降入学者用

目 次

◇ … 春学期開講科目
◆ … 秋学期開講科目

総合講座	◇ 若森榮樹	1
総合講座	◆ 若森榮樹	1
情報科学概論a	◇ 吳浩東	2
情報科学概論b	◆ 吳浩東	2
情報科学各論(入門)	◇ 各担当教員	3
情報科学各論(初級)「表計算入門」	◇ ・ ◆ 各担当教員	4
情報科学各論(初級)「プレゼンテーション」	◇ ・ ◆ 金井満	5
情報科学各論(初級)「HTML入門」	◇ ・ ◆ 各担当教員	6
情報科学各論(中級)「表計算応用1」	◇ ・ ◆ 松山恵美子	7
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◇ 東孝博	8
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 金子憲一	9
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 田中雅英	10
情報科学各論(中級)「HTML応用2」	◆ 東孝博	11
情報科学各論(中級)「データベース1」	◇ 長崎等	12
情報科学各論(中級)「データベース1」	◆ 松山恵美子	13
情報科学各論(中級)「データベース2」	◆ 長崎等	12
情報科学各論(中級)「プログラミング論1」	◇ 吳浩東	14
情報科学各論(中級)「プログラミング論2」	◆ 吳浩東	14
経済原論a	◇ 阿部正浩	15
経済原論b	◆ 阿部正浩	15
社会心理学a	◇ 田口正徳	16
社会心理学b	◆ 田口正徳	16

03年度以降 02年度以前	総合講座 総合講座B	担当者	若森栄樹
<p>◆講義目標 日本で「現代思想」と呼ばれている、現代ヨーロッパのもっとも先鋭的な思想への入門的な講座です。特に言語と思想のかかわりを中心に、ソシユールやフロイトから始まり、さまざまな思想家の世界に触れていきます。</p> <p>担当の先生はテーマに従って変わります。その分野の専門の先生が直接授業をされるので、現代思想に興味のある学生諸君にはぜひ聴講していただきたいと思ひます。</p> <p>◆講義概要</p> <p>いわゆる「現代思想」全体に対して、大まかな展望を与える講座となっています。具体的には、精神分析や言語学、そして構造主義およびポスト構造主義の哲学を解説し、理解していくことが目的です。最近日本では現代思想など「軽薄」で、どうでもよいと考え、そう公言する人が専門家のなかにもいますが、それは間違いで、多くの学ぶべきことがそこにはあります。</p> <p>難解とされる現代思想が実は私たちの現実と深くかかわっていることを理解していただければと思ひます。</p> <p>さらに詳しい授業内容および担当者についての説明を用意しています。興味のある方は教務課まで申し出てください。</p> <p>◆受講生への要望 単に知識を得るためではなく、自分でものを考え、自分で判断するためにこそ、私たちはものを学ぶのだということを忘れないこと。 本を読むのをいとわないこと。</p> <p>◆評価方法 最初の授業の際指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 各担当の先生から指示があります。</p>		<p>◆授業計画</p> <p style="text-align: center;">春学期</p> <hr/> <p>1. ガイダンス (若森栄樹)</p> <hr/> <p>2. 講座全体へのイントロダクション (若森栄樹)</p> <hr/> <p>3. ソシユールの言語学 (渡沼英二)</p> <hr/> <p>4. フロイトの精神分析学 1. (大原知子)</p> <hr/> <p>5. フロイトの精神分析学 2. (大原知子)</p> <hr/> <p>6. ジョルジュ・バタイユ (岩野卓司)</p> <hr/> <p>7. ワルター・ベンヤミン (工藤達也)</p> <hr/> <p>8. ジャック・デリダと脱構築 (若森栄樹)</p> <hr/> <p>9. ミシェル・フーコー (桑田禮彰)</p> <hr/> <p>10. アドルノと否定の弁証法 (船戸満之)</p> <hr/> <p>11. フランクフルト学派の諸相 (船戸満之)</p> <hr/> <p>12. 現代における詩人 (吉田文憲)</p> <hr/> <p style="text-align: center;">秋学期</p> <hr/> <p>1. 後期ガイダンス (若森栄樹) および現代フェミニズム 1. (井上たか子)</p> <hr/> <p>2. 現代フェミニズム 2. (井上たか子)</p> <hr/> <p>3. ソシユールの言語理論 (渡沼英二)</p> <hr/> <p>4. 精神分析の現在——ジャック・ラカン (大原知子)</p> <hr/> <p>5. 精神分析の現在——クライン、クリステヴァ (大原知子)</p> <hr/> <p>6. コジェーヴ、ラカンと日本 (若森栄樹)</p> <hr/> <p>7. ミシェル・フーコー (桑田禮彰)</p> <hr/> <p>8. ワルター・ベンヤミン (工藤達也)</p> <hr/> <p>9. アドルノと「ホロコースト」 (船戸満之)</p> <hr/> <p>10. フランクフルト学派 (船戸満之)</p> <hr/> <p>11. 現代思想の諸問題—まとめ (若森栄樹)</p> <hr/> <p>12. 詩とは何か? (吉田文憲)</p> <hr/>	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学概論 a 情報科学概論	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、文系学生のための情報科学とコンピュータリテラシーから着目し、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化・マルチメディア化、コンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。本講義はコンピュータのソフトの使い方ではなく、情報に関する知識を身につく方や情報関係資格を目指している方に役を立つように工夫している。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの間を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、ソフトウェアの開発の手法について述べる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>・レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標 2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算 5 コンピュータの論理回路とデータ表現 6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置(CPU)とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺措置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学概論 b 情報科学概論	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>・レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム(DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式、サーバー・クライアントモデル 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、IPアドレス、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 ネットワークセキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 オンライン・ソフトウェア オンライン・ソフトウェアの使い方と使用 12 まとめ 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(入門) コンピュータ入門	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション 3 日本語入力とタイピング 4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 5 情報倫理 6 ワードプロセッサとは 7 文書の作成(1) 8 文書の作成(2) 9 文書の作成(3) 10 文書への画像の挿入 11 レポートの作成 12 総合演習 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－表計算入門) 情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト 『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)－作成(MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)－発表 12 総合演習 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－表計算入門) 情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト 『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)－作成(MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)－発表 12 総合演習 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（初級—プレゼンテーション） 情報科学各論（初級—プレゼンテーション）	担当者	金井満
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法 授業内での個人プレゼンテーション。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（初級—プレゼンテーション） 情報科学各論（初級—プレゼンテーション）	担当者	金井満
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法 授業内での個人プレゼンテーション。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—表計算応用1） 情報科学各論（中級—表計算応用1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。 Excel に用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。 簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成された VBA(Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。 ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。 ——（重要）—— 定員は 30 名とする。希望者が 30 名以上の場合は抽選を行う。必ず第 1 回目の授業に出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と課題作成。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>第 1 回目の授業で指示する。必ず出席すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5 マクロ用ボタンとマクロの連携（1） 6 第 1 回目課題作成 7 Visual Basic Editor の利用（1） 8 Visual Basic Editor の利用（2） 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—表計算応用1） 情報科学各論（中級—表計算応用1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。 Excel に用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。 簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成された VBA(Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。 ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。 ——（重要）—— 定員は 30 名とする。希望者が 30 名以上の場合は抽選を行う。必ず第 1 回目の授業に出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と課題作成。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>第 1 回目の授業で指示する。必ず出席すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5 マクロ用ボタンとマクロの連携（1） 6 第 1 回目課題作成 7 Visual Basic Editor の利用（1） 8 Visual Basic Editor の利用（2） 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(中級－HTML 応用 1) 情報科学各論(中級－HTML 応用 1)	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることを目指す。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文など、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(初級)「HTML 入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p> <p>◆評価方法</p> <p>日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。</p> <p>◆テキスト</p> <p>プリントを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容説明 2 HTML の復習 (簡単な CGI の利用) 3 HTML の復習 (Java スクリプトの埋め込み) 4 Java アプレットの概要 5 プログラム練習 (グラフィックスイメージの表示) 6 プログラム練習 (定数と変数) 7 プログラム練習 (for 文 1) 8 プログラム練習 (for 文 2) 9 プログラム練習 (if 文) 10 プログラム練習 (配列) 11 プログラム練習 (Math オブジェクト) 12 総合演習 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用 1） 情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	金子憲一
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScript やCGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習（1） 3 HTML と FTP の復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5 CUI と GUI 6 JavaScript（1） 7 JavaScript（2） 8 JavaScript（3） 9 JavaScript（4） 10 CGI の利用（1） 11 CGI の利用（2） 12 総合報告会 	
◆ 評価方法			
課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。			
◆ テキスト、参考文献			
授業中に指示する。 プリントの配布も行う。			

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	田中 雅英
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みの学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、CGI や Java Script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中で更なる発展を目指す変更は当然ありえる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. Web ページのネットへのアップロード等 3. Java Script 1 4. Java Script 2 5. Java Script 3 6. Java Script 4 7. CGI 1 8. CGI 2 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業中に指示する課題と平常点で評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>			

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(中級-HTML 応用 2) 情報科学各論(中級-HTML 応用 2)	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI 部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(中級)「HTML 応用 1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p> <p>◆評価方法</p> <p>日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。</p> <p>◆テキスト</p> <p>プリントを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Java の基本構造 2 イベント処理 (マウスイベント 1) 3 イベント処理 (マウスイベント 2) 4 イベント処理 (キーイベント 1) 5 イベント処理 (キーイベント 2) 6 GUI 部品の使用 (ボタン・チェックボックス) 7 GUI 部品の使用 (選択ボックス・スクロールバー) 8 GUI 部品の使用 (GUI 部品のレイアウト) 9 スレッドの利用 (イメージの移動) 10 スレッドの利用 (色の変化・時計) 11 スレッドの利用 (スレッドを利用したゲーム) 12 総合演習 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論 (中級-データベース 1) 情報科学各論 (中級-データベース 1)	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフトウェア (Excel) の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの 1 つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論 (初級-表計算入門) を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>1 回目の授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 データベースについての調査 3 データベースの基本概念 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論 (中級-データベース 2) 情報科学各論 (中級-データベース 2)	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらう。グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論 (中級) 「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席及びレポート課題によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>30H で理解できるアクセス 2000, 実教出版 図解雑学データベース, ナツメ出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリー (1) 6 クエリー (2) 7 グループによるテーブル設計 1 (ハイレベルエンティティ分析) 8 グループによるテーブル設計 2 (関係データ分析) 9 グループによるテーブル設計 3 (テーブル作成) 10 グループによるクエリ設計 1 (外部スキーマの設計) 11 グループによるクエリ設計 1 (クエリの作成) 12 グループによるプレゼンテーション 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級—データベース1） 情報科学各論（中級—データベース1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものである。 データには数値データと文字データがあるが、Excelではそのどちらも同じように扱うことができる。膨大な量の情報のなかから、自分が必要とするデータを的確に抽出するには、数値データと文字データ両方の処理知識が必要となる。 ネット上からデータをダウンロードし、データベースの形式に加工する方法、情報をデータベース機能を利用して処理する方法などを取得することを目標とする。 授業の後半では、自分自身でデータベースを構築し、加工、分析、まとめ（発表）という一連の過程を行う。その過程からデータベースの基本的な概念を学習する。</p> <p>——（重要）—— 定員は30名とする。30名を超える場合には抽選とする。第1回目の授業で行うので、必ず出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席およびレポート課題。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「Windowsによる情報活用」 共立出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスおよびExcelの復習 2 データベースとは—データの配布 3 並べ替え機能と集計 4 レコードの抽出と検索 5 第1回目課題作成 6 クロス集計（1） 7 クロス集計（2） 8 第2回目課題作成 9 データベースの構築（1） 10 データベースの構築（2）、最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—プログラミング論 1） 情報科学各論（中級—プログラミング論 1）	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 最初の講義で指示する。 必要な資料をファイルで配布する。 		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 プログラミング言語の発展史 開発ツールとしての Visual Basic の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ Visual Basic の基本操作 コントロール配置、プロパティ設定、コーディング 簡単なプログラムの作成 プログラム開発の流れ、プログラムの動作を確認する 基本的コントロール オブジェクトと変数 選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 繰り返しあるプログラムの作成（1） 繰り返しあるプログラムの作成（2） 総合練習 アプリケーションの試作 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—プログラミング論 2） 情報科学各論（中級—プログラミング論 2）	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの提出および出席状況を加味して評価する。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要な資料をファイルで配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 前期の復習 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 ファイル操作（1） シーケンシャルアクセス：データの読み書き ファイル操作（2） ランダムファイルとランダムアクセス 個人情報データベースの設計 コントロールの活用 応用的なテクニック 探索 二分探索、併合、逐次探索 ソート 選択ソート、挿入ソート 文字列の処理 文字列の照合と置き換え 再帰というプログラミング手法 さまざまなグラフィックスの処理 	

03年度以降 02年度以前	経済原論 a 経済原論	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 「経済学の考え方」とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。</p> <p>講義概要 テキストのないように沿って講義は行う。なお、ほとんど毎回課題を課すので、それを自習し、提出すること。詳細については初回の講義で説明する。</p> <p>◆ 評価方法 課題提出および期末テストの成績による</p> <p>◆テキスト、参考文献 「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 経済学の考え方 3. 取引と貿易 4. 需要と供給と価格 5. 予備日 6. 需要・供給分析の応用（その1） 7. 需要・供給分析の応用（その2） 8. 時間とリスク（その1） 9. 時間とリスク（その2） 10. 公共部門（その1） 11. 公共部門（その2） 12. 予備日 	

03年度以降 02年度以前	経済原論 b 経済原論	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆ 評価方法 課題提出および期末テストの成績による</p> <p>◆テキスト、参考文献 「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. GNP とは（その1） 3. GNP とは（その2） 4. マクロ経済学と完全雇用（その1） 5. マクロ経済学と完全雇用（その2） 6. 経済成長（その1） 7. 経済成長（その2） 8. 失業と総需要（その1） 9. 失業と総需要（その2） 10. インフレーション（その1） 11. インフレーション（その2） 12. 予備日 	

03 年度以降 02 年度以前	社会心理学 a 社会心理学 (通年)	担当者	田口 雅徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。本講義では、こうした点を近年の研究動向を踏まえて概説していく。年間を通じての講義の概要は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会心理学とは 2. 行動の社会化と発達 3. 集団と個人の行動 4. 環境と人間の認知・行動 5. 他者認知と自己認知 6. 現代社会と個人の行動 <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、学期末の試験により評価をおこなう。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 社会的行動の発達① 4. 社会的行動の発達② 5. 社会的行動の発達③ 6. 社会的行動の発達④ 7. 集団と個人の行動① 8. 集団と個人の行動② 9. 集団と個人の行動③ 10. 集団と個人の行動④ 11. 対人関係の心理① 12. 対人関係の心理② 	

03 年度以降 02 年度以前	社会心理学 b 社会心理学	担当者	田口 雅徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的および講義概要は上記を参照。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、学期末の試験により評価をおこなう。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的環境と人間の心理① 2. 社会的環境と人間の心理② 3. 文化と人間の行動① 4. 文化と人間の行動② 5. 文化と人間の行動③ 6. 文化と人間の行動④ 7. 社会的認知① 8. 社会的認知② 9. 社会的認知③ 10. 社会的認知④ 11. 現代社会と心理① 12. 現代社会と心理② 	